

2023年度

事業報告

-実践報告版-



社会福祉法人よつかいどう福祉会

目 次

はじめに	．．． 4,5
01 ホーム活動	1- 春のいろ ．．． 6,7
	2- 虹のもと ．．． 7,8
	3- 花あかり ．．． 8,9
	4- 黒のピロード ．．． 10,11
02 生産活動	1-タートルズ（木工・箒班） ．．． 12-14
	2-クレインズ（織物班） ．．． 14,15
	3-ゴーツ（清掃班） ．．． 15-17
03 サークル	造形/スポーツ/ボウリング ．．． 17-19
04 地域貢献事業	- はたらくを ちいきの みんなと つくる - ．．． 20-23
05 行事報告	．．． 24,25
06 職員研修	．．． 25-27
07 健康管理	．．． 28
08 利用状況	．．． 29
09 2023年度 社会福祉法人よつかいどう福祉会事業計画	．．． 30-32
10 2023年度 社会福祉法人よつかいどう福祉会事業報告	．．． 33,34
11 相談支援事業 あわい	．．． 35
添付資料（1）「問題行動(他害など)のある利用者への支援方法の検討」	．．． 36-38
添付資料（2）「はちみつ用語辞典」2024.2 月 職員研究発表	．．． 39
添付資料（3）「みんなのねがい」金室修平 2023,12 月号,全国障害者問題研究会	．．． 40-42

はじめに

社会福祉法人よつかいどう福祉会

理事長 金室 修平

今年度は、作年度からおこなう事業展開に向けて大きく舵を切った年となりました。具体的には、地域活動支援センターⅢ型四街道市福祉作業所の受託と、地域貢献事業部の創設、さらにグループホーム建設着工のなどが挙げられます。

『四街道市福祉作業所』の指定管理の受託においては、応募するにあたり社会福祉事業の在り方を改めて法人で考える機会となり、また、考えを整理することができました。法人や施設の方向性、将来像をイメージしながら、障がいがある仲間と、そのご家族の豊かな生活を話し合い、議論することで、今回の指定管理の受託に繋がったのだと思っております。たくさんの方々にご指導、ご支援を頂きましたことに、この場をお借りして感謝申し上げます。

『地域貢献事業部 CCC』の創設については、これまでおこなってきた地域貢献を明確にしていくものとなります。私たちは、『地域の中で、地域のために、地域に必要とされる施設を（愛される）』目指して取り組んできました。8年目となるボランティア活動を中心に、たかおの杜に拠点を移してから、新規のボランティア先として、みそら小学校やみそら自治会と繋がり、清掃ボランティアをおこなってきました。そして、長崎農場との農福連携を実現しました。仲間と一緒に、地域と繋がることや地域が必要としているニーズを発掘し、それを実現するには、軸となる担当部署が必要になります。そこを地域貢献事業部 CCC が担う事で、これまで以上に仲間と地域とを繋げることができるのだと考えております。また、四街道市もねの里にある工業団地との『ユニバーサル工業フェスタ』の開催の企画、運営も CCC が中心となって行っております。地域活性化の一助になれるよう精一杯取り組んでいきたいと考えております。

グループホームの建設については、数年前から計画をしておりましたが、資金不足や、コロナウィルス感染拡大と併せて建材の高騰などで、着工までには至りませんでした。昨年度、令和5年度社会福祉施設等施設整備補助金の採択を受けて、グループホーム建設着工に向けて進められることとなりました。再来年度4月に開所をする予定です。一歩ずつ進めていけたらと考えておりますので、引き続きご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

今年度の事業報告は、『側楽（はたらく）、仲間たち』というテーマで実践の報告をさせて頂きたいと思っております。私たちは、『働く』ことを『側楽（はたらく）』と読みかえて取り組んできました。『側』とは、周りの人や隣にいる人、という意味です。そして、『楽』とは、たのしくする、らくにすること、といった意味です。周りの人たちをたのしくすることが、側楽＝働くことであると考えています。ホーム活動や生産活動で見られた『側楽（はたらく）、仲間たち』の様子を、報告致します。また、昨年には、障がいがある方はたらくをテーマにして『みんなのねがい 2023.12月号, 全国障害者問題研究会』にも掲載させていただきました。これは、施設の途中経過報告となります。労働については、今後も引き続き取り組んでいかなければいけませんし、実践を通してみんなで考えていく必要があると思っております。

当法人は、職員研修を毎月おこなっており、外部研修も含めると、毎月1回以上になります。2月には、『私たちの使命とは』をテーマに、研修をおこない、正規職員5名ずつ、アダルトチーム（平均年齢47歳）、ヤングチーム（平均年齢27歳）の2チーム分かれて発表しました。両チームとも当法人施設の事業理念である『地域の中で、地域のために、地域に必要とされる（愛される）施設を目指す』と、『地域の中で、普通の、人としての生活を送れるよう支援する』を、中心とする発表がおこなわれました。上記の事業理念にもございます、『普通の』や『人として』というワードは、とりわけ支援する側にとって大切なキーワードではないだろうかと議論されました。このワードの認識については、育

ってきた環境や、年代、性別によって異なることが分かりました。（※研修内容については、後述した研修にて報告致します）

施設の大小にかかわらず職員間のコミュニケーションの大切さと、それへの環境づくりが大切であると、はちみつ職員研究レポート「問題行動（他害など）のある利用者への支援方法の検討」（2023・村島友里絵・金室修平・緑川景太）の中でも記述しております。その職場環境づくりの一環として、研修を通した職員間での気づきは、非常に貴重な時間であったと思います。永続性を求められる社会福祉事業において、日々理念を確認し合い、職員間で使命を考えていくことは大変重要であると考えます。つまりは、多様性を認めつつ、使命を共有していくことが、実践を豊かにすることに繋がるのではないのでしょうか。今後の事業の規模が大きくなるにつれ、顕著にみられるであろう多様性を認めていくために、上記のように理念及び使命を確認し、仲間の生活を豊かにしていきたいと考えております。

昨今、株式会社や合同会社など、利益を目的に、多くの企業が福祉業界に参入しております。放課後デイサービスから始まり、生活介護や就労系事業所、GH も四街道市内では多く参入してきました。資源が増えることは嬉しいのですが、その反面『質』が伴っていないように感じます。もちろん、しっかりと寄り添った支援をしてくれる所も多くあります。しかし、利益重視の企業が増える中、私たちは社会福祉法人として、しっかりと『質』の高い支援を目指して、運営していく必要があります。今年度は報酬改定の年になり、本改定では、生活介護の基本報酬が大幅に減算になりました。報酬が減る一方、『質』の高い支援をしていかなければなりません。そこには矛盾を感じますが、私たちは仲間たちが、毎日楽しく、笑顔で過ごせる環境を創っていくことを、あきらめずに、粘り強くおこなっていきたいと考えております。引き続き、皆様からのご支援やご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



～ 利用者から『仲間』へ ～

私たちはこれまで、『はちみつ』に通う方たちを『利用者』と呼んでおりました。しかし、施設を利用される方たちであり利用者であることに違いはないのですが、一緒に仕事をしている『仲間』、職員と対等な立場で『はちみつ』『作業所』を創っている『仲間』、一緒に地域を創っている『仲間』という事実があります。そこで、私たちは、利用者を『仲間』と呼ばせていただくことにしました。



01 | ホーム活動

1- 春のいろ

堀 柊人 横瀬 さち 石田 政枝 北林 智子 山畑 遼侑
沼澤 明姫 遠矢 祐子 高杉 和明 山本 鮎実

○「One for All , All for One」…「一人はみんなのために、みんなは一人のために」

春のいろは男性6名女性4名の計10名で始まりました。2024年1月には新しい仲間が増え、計11名となりました。今年「仲間の体力（健康）維持向上を目的に無理のない運動を行い、仲間と一緒に職員も含めてコミュニケーションをはかり、集団を意識した取り組みを行っていく」という重点目標に積極的に取り組みました。春のいろの「側楽仲間たち」の素敵なエピソードをご報告いたします。

NO.1 朝のウォーキング

仲間の健康維持向上に向けて朝のミーティングが終わり、体操・ストレッチを行った後にはちみつの周りを1、2周歩いています。

「朝ごはん何食べた？」や「今日の調理楽しみだね」などお話ししながら、それぞれのペースで歩いています。毎日歩いているうちに、その姿を見た他のホームの仲間が「一緒に歩きたい！」と参加するようになりました。中には、仲間自ら他のホームの仲間に「ウォーキングに行かない？」と誘っている場面も見られます。今では、各ホームの希望者が混ざり、ワイワイと歩いています。



毎朝のウォーキングの効果として運動不足は解消されてきています。そして、たわいもない会話をしながら歩くという時間により、仲間同士の結束が高まったように思います。仲間同士で声を掛け合っている姿から、一人ひとり関係が築けていることに気付くことも出来ました。春のいろのウォーキングが、はちみつ全体の体力（健康）維持向上につながっていると考えます。



NO.2 保健係のお姉さん

Aさんは、以前はとても活発な方でしたが、加齢に伴い年々足腰が弱まってきました。歩行には支えが必要です。しかし、歩かないと歩けなくなってしまうため、ある仕事ををお願いすることにしました。体調に無理なく取り組んできました。

朝のミーティングが終わる頃、各ホームの入口にはその日の出席表が出ています。これを春のいろから順に4ホームを通り、一番遠くの医務室まで届けるというのが、Aさんのお仕事になりました。廊下を歩くAさんの背中を、ホームの仲間たちも応援しています。出席表を集めている時には、各ホームから「ありがとうございます」「お願いします」等、声を掛けられ、Aさんは笑顔で応えています。日中もニコニコ、声を出して笑っている姿が増えました。はちみつの「保健係のお姉さん」として定着しつつあります。

この仕事を行い始めてから、その日の体調にもよりますが、足腰がしっかりしてきました。ニコニコと声を出して笑っている姿も増えました。ただ歩くよりも、仕事を受け持ち、皆に感謝されることでやりがいを感じられると考えられます。はちみつの側楽仲間として春のいろの全体意識が高まり、活躍しています。

NO.3 スマイルストアの店長

Bさんは普段から周りを見て仲間の好きな物などをよく知っており、覚えています。そのため、Bさんはスマイルストア（月に一度の工賃を貰い、買い物ができるお店）の店長を務めています。Bさんが仲間を喜ばせる姿をご紹介します。

スマイルストアの買い出しは、職員とBさんでお昼休みやホームの時間に行っています。買い物中、仲間の好きなお菓子を見つけると真っ先に指を指し、「あったよ」と教えて下さいます。また、仲間が以前買ったお菓子や飲み物を覚えており、「嬉しそうだったからまた買おう!」とも考えてくれています。スマイルストアに仲間が欲しい物が並んでいると「ありがとう!」と感謝され、とても嬉しそうに喜んでいました。

Bさんは、自分が選んだものが仲間に喜ばれ感謝をされ、手応え・やりがいを感じたのだと思います。そのことにより、店長としての自信に繋がったのではないのでしょうか。

まとめ

今年度は冒頭にもありました「One for All, All for One」…「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という言葉が当てはまる一年だったと思います。そして、「重点目標」の「体力の維持向上」「コミュニケーションをとる」「集団」を意識した取り組みが積極的に出来たと思います。活動やホームで過ごす時間などが定着化し、各々の役割や仕事に慣れてきました。「コミュニケーションをとる」「集団」を意識した事に関しては、エピソード1、2の取り組みでのお話になります。エピソード3は仲間の良い所に焦点を当てた取り組みでした。

来年度も引き続き体力（健康）の維持向上に繋がる取り組みを続けていきたいと思っています。同時に仲間の良いところに焦点を当てながら、集団を意識した取り組みも行っていきたいです。

2- 虹のもと

渡邊 京子 鈴木 尚子 飯野 洋平 高橋 美紀
河野 佐知子 岩館 和大 高杉 洋子 村島 友里絵



今年度、虹のもとは8名の仲間とともにスタートしました。虹のもとは2年目となり、仲間とともに多くの時間を過ごすなかで、仲間のことを考え、行動する場面が多くみられました。困っている人に手を差し伸べたり、仲間と協力し合うことで頑張ることができたり、ホームという場所が安心して過ごすことができる『居場所』になっていると感じます。そんな側面(はたらく)仲間たちの姿を、エピソードをまじえて紹介します。

NO.1 仲間のために

虹のもとでは、季節や行事に合わせて壁面装飾作りをしています。創作活動が好きなAさんが、折り紙などで作った作品をホームの壁に貼り、小さな作品コーナーができたことが始まりです。みんなで創作活動を楽しみたい、と思っているAさんが、困っている仲間に手を差し伸べてくれたエピソードを紹介します。

クリスマスの壁面作りを楽しみにしていたAさんは、折り紙で作ったサンタを家から持ってきて、職員に「これを作りたい」と伝えてくれました。Aさんが考えてくれた折り紙のサンタを、ホームの仲間も楽しそうに作っていました。作品が完成し、ホームの仲間であるBさんが作品を壁に貼ろうとしていました。しかし、うまくテープを切ることができず、困っていました。そんなBさんの姿をみたAさんは、テープを切って、Bさんに渡してくれました。嬉しそうに作品を貼って

いるBさんを見て、Aさんは、その後も他の仲間が使いやすいように、何枚もテープを切っておいてくれました。

上記のエピソード以外でも、Aさんは、のりやハサミをそっと近くに置いてくれたり、仲間の好きな色のペンを渡してあげたり、さりげない優しさをみせてくれる方です。Bさんだけでなく、その後の仲間のことで考え、テープを切っておく、というホームの仲間を思いやる姿をみせてくれました。

NO.2 仲間がいたから頑張れた

今年度も、毎年恒例となっている餅つきを行いました。虹のもと、他ホームとともに豚汁の具材を切る担当となり、仲間と職員合わせて約50人分の具材の準備を行っていました。たくさんの具材を切るという準備は大変でしたが、協力しながら仲間と頑張る姿がみられたエピソードを紹介します。

ネギを切る担当になっていたCさんは、全体の半分ほどの量を一人で切ってくれていました。しばらくすると少し疲れてきたようで、「そろそろ終わりにする」と話していた為、他の仲間に代わってもらうことにしました。手伝ってくれる人がいないか仲間にきくと、Dさんが手を挙げてくれ、Cさんの続きを行ってくれました。その様子を見たCさんは、「もう少しできる!」と話してくれ、2人で協力し合いながら切ってくれました。

Cさんは、一人で頑張ってくれていましたが、Dさんが来てくれたことで、「最後まで頑張ろう!」という気持ちが沸いてきたのだと思います。一人だと難しいかも、と思うことでも、仲間と協力することで頑張ることができ、仲間の存在の大きさを感じました。

NO.3 みんなが主役に

たかおの杜に引っ越してきてから初めての開催となる「ハフェス」が行われました。虹のもと、会場の公園の柵に飾る、竹のガーランドを作る担当となりました。公園は広いので、一人ひとりの力が必要となります。ハフェスは、たくさんの出展団体による販売や、アーティストのライブなど、どんなイベントになるのだろう、と皆、ワクワクしながら準備をしていました。ホームの仲間が力を合わせ、一人ひとりが主役となったエピソードを紹介します。

竹のガーランド作りは、竹枝をノコギリで切った後、1本1本に紐を付けて、さらに1本の糸に繋げるという作業を行います。そこで、ホームの仲間一人ひとりが得意なことをいかして、作業を分担することにしました。ノコギリで切る人、糸で結ぶ人、材料を運ぶ人、全員が役割を持って、ガーランド作りを進めていきました。何日かかかってしまうと思われましたが、集中したときの皆の作業スピードは早く、一日で目標にしていた数を作り終えることができました。



ガーランド作りは、一人ひとりが主役となったことでホームの仲間が一丸となり、頑張ることができました。当日は、小さなお子様が竹のガーランドに触れており、お客さんに楽しんでいただく姿をみて、仲間たちも嬉しそうでした。

まとめ

1年を振り返ると、側楽仲間たちの姿をたくさんみることができました。2年目となり、仲間のためにという気持ちがより一層強くなったと感じます。側楽ことは、仲間の存在を身近に感じ、ホームのなかのつながりを深めることだと感じました。仲間同士の助け合いがみられた時、職員と一緒に「あ、り、が、と、う！」と伝えたり、お気に入りのぬいぐるみを使って頭を下げたり、感謝を伝える方法は人それぞれです。

今後も、仲間同士の助け合いや感謝する気持ちを大切にしながら、支援をしていきたいと思います。



(虹のものと壁には季節の装飾がされている)

3- 花あかり

小島 美海 嶺岸 みゆき 北原 晶子 志保澤 優子
清水 さやか 穴澤 悦子 緑川 景太



『花あかり』のホームがスタートしてから一年と少しが経過しました。今年度から新たな仲間も加わり、昨年度と比べて、より一層活発なホームになってきました。また、明るく、やさしい心を持っている仲間たちはこれまで以上に様々なイベントや活動に積極的に参加されていました。時間の経過とともに、仲間たちも落ち着くことのできる自分の居場所ができてつつあります。

○ 一人ひとりの役割がもたらしたこと

私たちのホームでは、一人ひとりが自分のもつ役割をしっかりと意識して日々生活しています。『花あかり』は助け合う姿や人のために何かをする姿が多く見られる、そのようなホームです。自分の役割を通して仲間とのかかわりが増え、『側楽』が溢れた一年となりました。



NO.1 タイムキーパー

花あかりのホームで一緒に過ごし、仲間同士の思いやりを目にすることで仲間たちの良いところが多く見られたのでエピソードとともに紹介します。

いつも腕時計を身に付けている A さん。しかし、ただ身に付けているだけではなく、普段からしっかりと時計を見て行動されています。最近は仲間との関係を築いてきたこともあり、何かに取り組む時間などになるとみんなに声掛けをしてくださっています。また、A さんは一日の予定を把握し、仲間たちに共有する姿も見られ、A さんが声掛けをしてくださるおかげで一日を穏やかに過ごすことができているといっても過言ではありません。

日々の生活を過ごしていく中で、見通しをもつことは非常に大切であると私たちは感じています。見通しをもつことで、一日を過ごしていくうえでの不安などを払拭し、落ち着いて過ごすことができる仲間も多くいます。そのため、A さんは時間や予定を共有することで、仲間たちに安心感を与え、スムーズに動くことができるような環境作りをしてくださっています。これも周りの仲間たちを支える『側楽』なのではないでしょうか。

NO.2 気配り名人！！

花あかりのホームでは一人ひとりが役割を意識して過ごしています。自分の役割を果たすだけでなく、仲間の役割も把握し、少しでもサポートしようとする仲間同士の助け合う姿が見られたのでエピソードとともに紹介したいと思います。

Bさんはみんなの役割をしっかりと把握し、様々な人の手助けをしてくださいます。例えば、ホワイトボードに予定を書く方がその作業を忘れていたら、ホワイトボードを持っていき、声掛けをしてくださっていました。また、昼食時に布巾を配る方がお休みであったときには、代わりに自ら進んで布巾を配ってくださったりもしています。それに加え、仲間の昼食の進み具合がゆっくりになる時には、こまめに様子を伺い、「今日のご飯も美味しいよ！これも食べてみたら？」などと優しい声掛けをしてくださる姿も見られました。

自分の役割だけでなく周りの仲間たちの役割までも把握し、その手助けをする姿はまさに『側楽』です。役割を通して仲間同士の良い関係を築くことができているため、今後もそういったことも大切にしつつ取り組んでいきたいと思っています。

NO.3 いつの間にか「側楽」

花あかりではボランティア活動で「児童発達支援事業所 四街道市児童デイサービスセンターくれよん」へ週に一度行かせていただいています。そこでは、主に玄関や庭の清掃活動に取り組み、その中で、仲間たちの側楽姿が見られたので紹介いたします。

ボランティア活動では落ち葉掃きや雑草抜き、そのほかにも様々な作業があります。はじめはどのように作業を進めていこうかなど、試行錯誤しつつ取り組んでいましたが、回数を重ねるごとに徐々に慣れてきた様子でした。その中で、1人が作業に慣れてくると、他の仲間たちにやり方を教える姿が次第に見られるようになってきました。

このように、仲間同士で教え合う姿が増え、今では自然と、落ち葉を集める人やそれをちりとりで拾う人、袋を広げて回収する人に分かれ、自ら役割を担い、取り組んでいます。



このボランティア活動を通して、仲間同士でお互いの得意なところを見つけ、それぞれが役割をもち、作業に取り組む姿が見られるようになりました。自然とお互いに支え合い、一つのことをやり遂げ、いつの間にか『側楽』というかたちになっていたと思います。今後もこのような機会を増やし、より豊かな関係づくりを目指していききたいと思います。

まとめ

上記のエピソードのほかにも花あかりのホームではたくさんの『側楽』が見られています。一人ひとりが役割をもち、『側楽』に溢れたホームで一緒に過ごすことで、仲間同士のかかわりが増え、より生活が豊かになるのではないかと感じています。それに加え、仲間同士のやさしい声掛けから、お互いの信頼関係が構築され、『側楽』を生みだすのではないかと思います。また、誰かのために何かをしたいという気持ちを大切にしつつ、今後は一人ひとりにスポットがあたるように意識しながら日々の支援を行っていききたいと思います。そして、さらに思いやりのある『花あかり』をみんなでつくっていきます！



(音楽レクにて。「線路はつづよどこまでも」では、毎回自然と列車ができる)

4- 黒のビロード

宮本 英恵 渡邊 昌代 梅田 かおる
廣井 美奈 高田 有啓

黒のビロードは、今年度から新しく増えたホームです。他のホームから移って来た仲間、4月から入所した仲間計9名（男性6名、女性3名）でスタートしました。最初は、新しい集団、空間に戸惑う姿もありました。今では仲間の良い所、得意な事を活かし、互いに協力し合いながら活動しています。ここでは、黒のビロードでみられた「はたらく仲間たち」の姿を通して黒のビロードが仲間たちのホーム（居場所）になっていく過程を紹介させていただきます。

NO.1 はたらくミーティング

朝と帰りに行くミーティングでは、司会、挨拶、予定と天気発表、昼食の献立発表と個々の担当が決まっています。最初は慣れない事もあり、席に着く事も難しい仲間もいました。ここでは、現在ミーティングを行う仲間たちの様子を書かせて頂きます。

昼休みになるとミーティングで発表する為にホワイトボードに、Yさんは、明日の予定と天気を書き、Uさんは明日の献立を書いています。この様に、ミーティングの準備を自ら進んで行っています。ミーティング開始時間になると、司会のTさんは「3時10分になりました!」と、仲間に開始時間を教えてくれます。Tさんの声をきっかけに、全員着席してミーティングが始まります。Tさんは、挨拶や予定発表、出席確認の担当が欠席の時は、代わりに他の仲間を指名し指名された仲間も快く代役を務めてくれています。

最初は戸惑いながらミーティングを行っていましたが、現在ではTさんを中心に仲間たちは自分の担当を理解し、全員が席についてミーティングを行う事が出来ています。これからも仲間が協力し合いながら行えるように取り組んで行きたいと思います。

NO.2 年忘れゲーム大会

黒のビロードでは、ホーム活動の内容をみんなで、話し合っていて決めています。12月の予定を決めている時に、仲間から「ゲームをしたい!」という意見があり年忘れゲーム大会を行う事になりました。ここでは、年忘れゲーム大会で活躍した、Uさんのエピソードを紹介させていただきます。

黒のビロードでの年忘れゲーム大会では、Uさんに得点係をお願いする事になりました。Uさんは、計算が得意で昼休みに計算問題を行っているからです。輪投げでは、仲間が投げ終わる度、的に書かれた点数を計算してホワイトボードに記入してくれました。途中結果や最終結果の得点もしっかりと間違いなく計算を行いました。さらに新春スポーツ大会では全員の前で、暗算を披露し、仲間から「凄い!」「これからも得点係をUさんにお願いしよう!」とほめられ、笑みを見せ喜んでいました。

Uさんの得意な事を仲間知ってもらえる良い機会になり、またUさんにとって、得意としている計算を認められ、仲間から頼りにされる事は良い経験になったと思います。

NO.3 たのしいハロウィン

黒のビロードでは、季節に合わせて創作活動を行っています。壁面には季節を感じられる装飾で飾られ部屋全体に楽しい雰囲気があります。ここでは、自分たちのホームだけではなく、他のホームも楽しませようと取り組んだハロウィーンでの出来事を紹介させていただきます。

10月、ハロウィーンで何をしようか仲間と話し合い、おばけの仮装をする事になりました。ホームや休み時間に、黒いビニール袋を切る、衣裳に付ける飾りを作る、文字を書くなど作業を分担して衣裳を作りました。とても素敵に出来たので、これを着て他のホームへサプライズ訪問をしに行く事にしました。ハロウィーン当日、黒のビロードの仲間は自分たちで作った衣裳を身につけ笑顔で部屋から飛び出して行きました。そして「ハッピーハロウィーン！」と声をあげながら、他のホームへ入って行き仲間達を驚かせました。はちみつ中に明るい悲鳴と笑い声が響き渡りました。



側楽には側にいる人を楽にするという意味と、側にいる人を楽しませるという意味があります。ここでは後者の「はたらく」が実践されました。みんなで一致団結してハロウィーンの準備を行い、黒のビロードだけでなく、他のホームの仲間も楽しませてくれました。

まとめ

黒のビロードは、仲間達にとって安心し落ち着いて過ごせる居場所になって来ていると思います。さらに過ごしやすい居場所となっていく為に、一人ひとりがホームで役割を持つ事、好きな空間、好きな仲間がいる事が必要だと考えます。来年度も引き続き仲間の良い所、得意な事を活かし、これからも黒のビロードにとどまらず、はちみつ全体を楽しく出来るようなホームを目指したいと思います。

02 | 生産活動

1- タートルズ（木工班）

宮本 英恵 高田 有啓 山本 鮎実 横瀬 さち 鈴木 尚子
渡邊 昌代 梅田 かおる 高橋 美紀 沼澤 明姫
遠矢 祐子 岩館 和大 高杉 和明 渡邊 京子

タートルズは、仲間 16 名、職員 12 名、ボランティアさん 1 名で木工製品と亀崎箸を生産しています。今年度は、特に竹箸づくりに重点を置いて取り組みました。今までは、亀崎の師匠から教わった何人かの職員を中心に作っていましたが、作業工程を見直し、仲間たちが竹箸づくりに多く関われるようにしました。竹箸づくりの工程は以下の通りです。

工 程		仲間の仕事	
柄 づ く り	切る	・ノコギリで切る	
	節を取り、やすり掛けをする	・節のやすり掛け	
	穴をあける	・上から約 10 cm のところに印をつける	
		・インパクトで穴をあける	
	油抜き・・・ 直火にあてて油を浮かせ、拭きとる、 柄をまっすぐにする (虫がわからないための工程です)	・浮いた油を布で拭き取る	

	穴に杭を打つ (穂が抜けないための重要な杭です)	・穴をあけたところに杭を打つ	
芯	枝を切る	・ハサミで切る ★エピソード 1 ・切った棒を袋に入れる	
づ	決められた長さに切りそろえる	・基準となる長さの棒に合わせて (長い、短い、ちょうどいい) 分ける ・長い枝は切る	
く	枝を一本ずつ整える	・節から出ている枝の下から 1 番目と 2 番目をとる (赤い枝)	
り	直系 15 cmの束を作って芯の完成	・根元をそろえる ・束を紐で結ぶ	
組	穂先約 60 cmの長さで節の上で切る	・葉っぱを取る	
部	節から出ている細かい枝をとる	・節から出ている枝の下から 1 番目と 2 番目をとる (赤い枝) ★エピソード 2	
材	部材をまとめて、紐で結ぶ同じ向き (一番下の枝が左に生えているのか、右 に生えているのか) の枝同士 12 本ま とめる (組部材の完成)	・12 本数えて、ひもで結ぶ	
組			
み			
立	柄に芯と組部材を組み立てる	・材料と道具を一つひとつ、正しい順番 で組み立てている人に渡す (工程を覚えることはとても難しいた め、これができるのは今のところ一人 だけです。)	
て			
包			
装	完成した箒の穂を紙で包む	・紙を大きさに切り、穂に巻く ・亀崎箒のロゴの紙を巻く ★エピソード 3	

各工程で見られた『側楽仲間たち』の姿を紹介します。

NO.1

芯づくりで「はたらく」

竹箒の仕事の時には、部屋にブルーシートを敷き、その真ん中に大量の枝を置きます。枝を囲むように仲間が座り、準備完了です。2～3人で1本のハサミを使い、枝を切っていく仕事の中で次のようなことがありました。

Aさんは、ハサミを使う仕事が好きです。枝を切る仕事は1本のハサミを2～3人で順番に使用しますので、どうしても待ち時間が出来てしまいます。いつもなら早く次がまわってこないかなとソワソワしているAさん。ある時、急に立ち上がったので職員はどうしたのかな？と見守っていると、ブルーシートの真ん中にある枝をみんなが立ち上がって遠い枝を取らないで済むようにAさんが枝を大量に手前に持ってきてくれたのです。自分たちの前に枝が無いと気が付いたAさんは、仲間のために自ら運んでくれました。Aさんのおかげで仲間は、手を止めることなく枝切を進めることが出来ました。仲間から「ありがとう」という称賛の声が聴かれ、Aさんは誇らしげな表情を浮かべていました。

Aさんは最初、「どうしたら大好きなハサミの順番が早く回ってくるのか」と、考えての行動だったと思います。しかし、Aさんの行動により周りの仲間もスムーズに仕事が出来ました。仲間に感謝されたことで、次からは自分のためだけでなく『仲間のために！』と、はたらく力に変わったのだと思います。

NO.2 組部材づくりで「はたらく」

組部材を整えるには、小さな枝を一か所取ったら、隣の人に渡していくという仕事があります。工程を分業することで、取らなくてはいけない小さな枝だけを取ることができるようになりました。次に枝を渡すときにどのように渡すかによって、作業のやりやすさが、違ってきます。そんな仲間同士のちょっとした心遣いをご紹介します。

Bさんは、あまりお話しは得意ではありませんが、手先が器用な方です。隣の人からBさんのところに枝が来ます。Bさんは、あっという間に枝を取り、また隣の人に渡してくれます。その時に『表と裏』、『上と下』を毎回確認し、次に作業する人の取りやすい位置を考えながら枝をおいてくれます。そんなBさんの心遣いで、隣の人作業が楽になりました。仲間から、「優しいね。ありがとう」といわれ、Bさんは、恥ずかしそうにしていたましたが、とてもうれしそうな表情で（どういたしまして）と頭を下げてこたえていました。

Bさんは『次の人のために』という気持ちから毎回確認してくれていたのだと思います。ちょっとした心遣いが仲間に伝わり、感謝されたことがBさんにとっても手応えに繋がったのではないのでしょうか。

NO.3 包装で「はたらく」

使いはじめる前の亀崎ほうきは、穂のところから小さな枝がバラバラと落ちてしまい、お客様にご迷惑をかけてしまうため、完成した後に穂の穂をわら半紙で包装します。包装も大切な仕事です。そんな時の様子をご紹介します。

ある日仲間が、包装用のわら半紙を穂のサイズに切っていました。しかし、紙が動いてしまい、なかなかうまく切ることができませんでした。同じテーブルにいたCさんは、動いているわら半紙をパッと抑えてくれました。Cさんが抑えてくれたことであっという間にわら半紙を切ることができ、穂に巻くことが出来ました。仲間から「抑えてくれてありがとう」と称賛され、Cさんは、誇らしげな表情をしていました。

Cさんは、仲間が困っている姿を見て、パッとわら半紙を押えてくれました。仲間を意識しながら、仕事に取り組んでいたからこそその行動だったのだと思います。そのことで、仲間に称賛され、Cさんは手応えを感じ、仕事に取り組むことが出来たのだと思います。

まとめ

みんなで竹箒づくりが出来るように試行錯誤した一年でした。各工程で集まり、並んで円形に座ることで流れ作業がしやすくなりました。下から1番目の枝を取る、2番目の枝を取る、枝を箱に入れる等、今までよりも仕事を細かく分業しました。これまで以上に仲間同士で声を掛け合いながら『はたらく』姿が多くなったように思います。今後の課題としては、生産スピードや生産量を考えていかなくはなりません。もちろん丁寧な物作りは大切です。質を落とさずに今よりもたくさん作り、販売していけたら、この素敵な亀崎箒がもっと多くの方の手に渡ります。伝統を受け継ぎつつ、私たちのことを知ってもらうために、取り組んでいきたいと思っています。来年度もみんなで「側楽」を充実させて、仲間たちが手応えを感じられるように支援していきたいと思っています。



2- クレイNZ（織物班）

緑川 景太 北原 晶子 清水 さやか 廣井 美奈



新しいはちみつになり1年が経過しました。クレインズでは、機織りに初めて挑戦する方もおり試行錯誤の日々でした。そのような日々を過ごす中でも、1人ひとり少しずつ出来ることが増えた1年でもありました。それは仲間同士で声をかけ合い協力する姿が多くあったからだと感じています。本報告のテーマでもある「側楽仲間たち」の様子をエピソードとともに紹介させていただきます。

NO.1 「機織りって、楽しいよ！」

「機織りって楽しい！」と感じてもらえるように日々試行錯誤を重ねていく中で「お仕事頑張るよ！」と前向きな気持ちを伝えてくださる仲間が増えてきました。しかし、緊張や不安などからクレインズに来ることが難しい方もおり、どのようにしたらよいか悩むことがありました。そのような時、仲間が仕事のたびに優しく前向きな言葉をかけてくださり、ある変化が見られました。

仕事が始まる前になると「やらない」「こわいの」と話し、クレインズに来ることが難しかったAさん。そのような様子を見た仲良しのBさんは、仕事のたびに「何がこわいの？たのしいよ♪」と優しく声をかけてくださるようになりました。月日が流れていく中で、AさんとBさんがニコニコ笑顔でクレインズに来ることが増えていきました。さらにBさんは「一緒に機織りも頑張ろうよ～」と声をかけてくださるようになり、2人で機織りに取り組む姿も見られるようになりました。

「側楽」という言葉には「周りの人をたのしくする」という意味が込められています。私たち職員は、仕事をするのが楽しいと仲間にも感じてもらえているのだろうか…と日々考えています。今回のエピソードでは、Bさんの仲間をたのしくする声かけや働く姿によって、Aさんは、仕事をしに来ること・機織りをするこって楽しいのだ！と感じることができたのではないかと思います。

NO.2 仲間のためにも

機織りをするためには、ボビンに糸を巻く作業が必要になります。初めの頃は職員と一緒に取り組んでいましたが、最近では一人で出来る方も増えてきました。「自分でやりたい！」という気持ちが多く見られるようになったCさん・・・

Cさんは仲間がクルクルとボビンを巻く様子が気になり、その作業をよく見に来るようになりました。するとある日、Cさんは「自分でやりたいの！」と話し、1人で見よう見まねでボビン巻きを始めました。仲間から「え！一人で巻いてるの凄い！」と褒められてニコニコ笑顔を見せてくださいました。初めは自分が使う分だけを巻いていましたが、仲間からお願いされると、「えー？」と言いながらも、ニコニコしながら仲間の分も巻いてくださるようになりました。

Cさんは、はたらくことが楽しいと感じて、さらに仲間達がたのしく働く姿を見て、さらに次のステップである「挑戦してみたい！」という気持ちが生まれたのではないかと思います。これからも仲間達自身の中から生まれてくるワクワクする気持ちを大切に、様々な経験ができるように支援をしていきたいと思っています。

NO.3 紡ぐ糸がベルトに

現在クレインズでは新しい製品開発としてベルト作りに取り組んでおり、Eさんが専属で挑戦しています。また、糸を大切にしようという考えから、ベルトには反物やはぎれの端についている糸を切り、結び合わせて使用しています。それによりカラフルなベルトとなっていくます。新しいことに挑戦をする中で、仲間同士の「側楽つながり」が見られました。

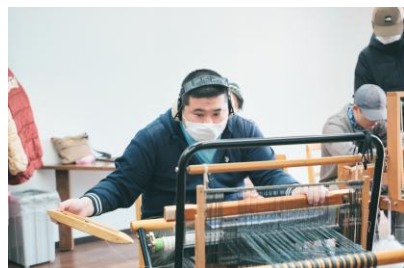
職員が糸を結んで繋いでいたある日、D さんが「これ」と糸を指さして自分もやりたいと教えてくださいました。黙々と取り組む Dさんは結んで、ハサミで糸を整えて、さらポビンにも巻いてくださるようになりました。ベルト用の糸だとお伝えすると、出来上がったポビンをベルト織りに挑戦している E さんに届けてくださるようになりました。

新しいことに挑戦する E さんの為に D さんが糸を作ってください、これはまさに「側楽」の連鎖なのではないかと感じました。今では D さんだけではなく、他の仲間も糸を繋いでくださっています。これからも素敵な側楽連鎖が多く見られるよう、支援して参ります。



(新作ベルト)

まとめ



仕事をするうえで、仲間たちが達成感や楽しさといった目には見えないものを感じていただくことはなかなか難しいことではないかと考えていました。しかし今年度は仲間達から「お仕事頑張ろうね!」「楽しい!」「もう少しやる!」といった、前向きな言葉が多く見られ、難しい中でも少しずつ感じていただけているのではないかと思います。そしてそれらは、仲間たち同士の関わりから、生まれてくる

ことが多くあるのではないかと感じます。「側楽」仲間達自身の中から生まれてくる「挑戦したい! 楽しみたい!」という気持ちをこれからも大切にしていきたいと思います。また、今回のベルト作りのように、新しいことに挑戦する、自分たちで製品を販売するなど、手ごたえややりがいを感じる、ワクワクするような機会・経験ができるように今後も支援していきたいと思います。



3- ゴーツ（清掃班）

村島 友里絵 石田 政枝 北林 智子 飯野 洋平 嶺岸 みゆき
山畑 遼侑 志保澤 優子 河野 佐知子 堀 柊人

日々、『地域の中で、地域のために、地域に必要とされる（愛される）』ように精一杯取り組んでいます。昨年は、施設の隣にある公園の除草作業、施設内清掃、洗車とタイヤ交換と窓ふきを行ってきました。今年度は、行政等からの依頼として、旧サンワークと第一作業所、地域振興財団より近隣の公園（たかおの杜第1公園、たかおの杜第3公園）の除草作業に取り組みました。このことにより、3つの活動班の中で売り上げが1位になりました。この1年間で一人ひとりがやりがいを感じながら、仕事に取り組む姿が見られましたのでエピソードとともに紹介させていただきます。



NO.1

「洗い残しは、許しまへんで!」

A さんはとてもきれい好きな方です。清掃以外にも、靴を揃えたり、洋服を畳んだり様々なことに気がつきます。そんな A さんが、得意を活かして輝いていたシーンがありましたのでご紹介いたします。

その日の仕事は洗車でした。水洗いの担当になった A さんは、ホースの順番が回ってくると他の仲間がやっていた場所をもう1度流し始めました。何回も自分の番になるとまた同じ場所を水洗いするので、職員はそれがなぜなのか分からず、しばらく見守っていました。すると洗い残してある細かい泡をきれいになるまで落としていたのです。職員が気づかないような細かい泡に A さんは気づき、それが落ちるまで洗い流してくれていたのです。今では A さんに仕上げをお願いしていま

す。洗車が終わるとスポンジについた泡を洗い流すことまでやってくれていますが、自分の手についた泡は落としきれない、というお茶目な一面もある A さんです。

他の仲間たちが気づかない部分も気づいて下さりいつも助かっています。はじめは、なぜ同じ所ばかり流しているのかわかりませんでした。「違う場所を流そう！」と声掛けをしても同じところを流していました。A さんの性格や、普段の仕事への姿勢を考えると「何かあるのではないか？」とじっくり見守っていたことで、A さんが洗い残しを流していることに気がつきました。A さんは、これからも細かいことに気づき活躍して下さると思います。

NO.2 ゴーツの大黒柱

清掃班では仕事をする時は草刈り機、モップ、高圧洗浄機など様々な道具を使用します。B さんはとても頑張り屋さんです。どの仕事に置いても「私がやるよ！」と言って仕事に励んでいます。そんな B さんが、諦めず仕事に取り組まれていたシーンがありましたのでご紹介いたします。

ある日、除草作業を行っている時に職員が鎌を使っていました。B さんは職員に「私もやりたい！」と言って、使ってみることにしました。最初は思うように使いこなせず、手が止まってしまうことが多くありましたが、それでも活動の日には毎回鎌で草刈りをしていました。日に日に上達し、今では草刈り機では刈れない場所を B さんが率先して鎌で草を刈ってくださっています。他にも熊手（レーキ）や枝切りバサミなどの道具にも挑戦しています。

B さんが「鎌」の使い方が上達したことによって、他の仲間たちがより仕事をしやすくなりました。今までできなかった箇所もさらに綺麗になり、その場所を利用する方もより使いやすくなったと思います。B さんは、どの仕事においても道具を使いこなし、清掃班では欠かせない存在です。

NO.3 おそうじ隊

施設内清掃にも慣れてきて、手順やり方など完璧に覚えている仲間もいらっしゃいます。今年度は仲間同士で教え合い、一緒に仕事をしたり、コミュニケーションを取り合っている場面が多く見られました。その中でも特に 3 名の仲間の関係が深まり、仕事にもいい影響をもたらしていましたのでご紹介いたします。

C さんと D さんと E さんは除草作業や施設内清掃と一緒に仕事をする機会が多くありました。3 人は軍手やモップを渡す姿があり仲間意識を持ち、高め合うようになりました。3 人に仕事ををお願いするとあっという間に綺麗になります。何か話をするわけではなく、困っていたら助け合い一緒になって仕事に取り組まれています。仕事が終わると笑顔でハイタッチをしています。今では施設内清掃はこの 3 人の仲間たちに専属でお願いしています。

3 人で仕事をするようになり、他の仕事でも切磋琢磨し合っています。施設内清掃を行うことではちみつがピカピカになり、職員や仲間たちに「ありがとう！」と称賛されることが増えました。今では、はちみつに貢献していると実感しています。これからはちみつのおそうじ隊として活躍してくれると思います。

まとめ



清掃班・ゴーツが誕生して 1 年が経ちました。今年度は公園の整備、施設周辺のゴミ拾いで地域に貢献し、施設内清掃、ハフェスの会場整備、仲間の工賃アップに貢献してきました。季節によって仕事内容が変化し、反復作業も多有りました。環境によって左右される仕事ですので、過酷な状況もありました。そんな中でも仲間同士で声を掛け合い、一人ひとりが楽しく仕事に取り組まれている姿が印象的です。他の活動班のように、販売会で自分たちの作った製品が売れる＝工賃になる、といった実利の理解については課題になります。しかし、ゴーツ



は、第三者からの「ありがとう」がどの活動班よりも多く聞かれます。こういった「ありがとう」を大切にしながら、実利をイメージできるようにしていきたいと考えています。

来年度も引き続き公園整備を行う予定です。ゴーツの活動により、これからも地域とはちみつに貢献できるようにみんなで力を合わせて頑張ります。来年度も温かい目で見守っていただけると幸いです。

03 | サークル

毎月2回水曜日の午後行っています。仲間たちは、造形・スポーツ（ボーリング）・カラオケから好きなサークルを選びます。いつも決まったサークルを選ぶ方もいますが、その日の内容によって、自由に参加しています。昨年度好評だったボーリングサークルはスポーツサークルと統合されました。以前から外でのスポーツ活動を望む声があったからです。コロナの終息をみて、ずっと行きたかったボーリング場とカラオケボックスへ出かけることも叶いました。仲間たちが毎回楽しみにしている、各サークルの様子をお伝えします。

1- 造形サークル

絵を描くことや、ものづくりが好きな方が集まりやすいサークルです。毎回必ず参加して下さる仲間もいて、メンバーが固定されつつありますが、その日の内容によって増えたり減ったりしつつ、平均的に6名前後の少人数でゆったりと楽しく活動しています。

〈 造形サークルで大切にしていること 〉

- ・ 仲間の「好き」「得意」を把握する
- ・ 仲間の表現したいことを尊重する
- ・ 季節に合わせて、季節を感じられる内容とする
- ・ 材料やモチーフには周りの自然を利用する
- ・ ゴール（完成）よりも過程（プロセス）を大切にする
- ・ 新しいことにも挑戦し、仲間の新しい一面を引き出していく
- ・ 美しさや表現への理解を深め、アートを追求していく



○ ふるさとまつりアート提灯

今年の四街道ふるさとまつりは、千葉県政 150 周年記念行事として、盛大に開催されました。とくにアート面が充実され、提灯づくりのワークショップが市内各所で行われていました。はちみつにも仲間の人数分の提灯キットが届きました。これを各ホームで作ろうと思っても、骨組みを組み立てるのが大変そうだという声があり、「造形サークルさん作ってください!」と頼まれました。ものづくりが好きな仲間たちは、工作キットは大好きです。パキパキと厚紙を切り取り線で切ってバラバラにし、線で折り曲げ、ホチキスで止めていきます。あっという間に 35 個の骨組みが組み立て上がりました。さらに、造形サークルとしては、ただ白い骨組みでは物足りません。みんなで色塗りをすることにしました。これもみなさん大変集中して塗り続け、素敵な骨組みが完成しました。

早速、造形サークルの仲間が絵を描いて貼り合わせ、見本となる提灯を作ってくれました。各ホームには、人数分の骨組みと共に見本も配られ、造形サークルの提灯をお手本に全体で制作されていきました。そんな提灯づくり中、新たな作品も生まれました。

Rさんは、いつも完成イメージがしっかりとあり、理想を高く追求されています。そのイメージ通りか、それよりも上手く出来ないと、投げ出してしまうこともあります。提灯づくりもなかなか思うように進められず、手が止まっていました。提灯キットの骨組みを切り離したあとに、ギザギザの厚紙が沢山ありました。「ノコギリみたい」と言ってRさんが興味をもっているようでした。そこで職員が「それに絵を描いてみますか？」と提案したところ、Rさんの目が輝き、どんどん描いったのです。



Rさんは、それからというもの、よく手が動くようになり、提灯の色塗りも積極的に行っていました。きっとあの時、自由に好きな絵が描けたこと、楽しかった経験がやる気につながったように思います。

ふるさとまつり当日、四街道中央公園の屋根付き運動場には、市内から集まったアート提灯がずらりと並びました。日が落ちるとその美しさは圧巻でした。その中に、はちみつの提灯はカラフルな骨組みと 888 アートで存在感を放っていました。888 アートが地域の人々と一緒に並ぶことは、大切なメッセージを含んでいるようにも思いました。



今年度は、一人ひとりの表現が充実するよう、仲間たちの「やりたい」という気持ちに寄り添いました。楽しそうに制作している様子を見て、「たまには造形に行ってみるか…」と、参加して下さる方もいます。自分の作品を作るだけでなく、行事に必要な飾りや小道具を受け持つこともあり、造形サークルは、はちみつのアート活動を支える存在となっています。

来年度も引き続き、自由に制作できる環境を整え、一人ひとりの表現の充実を図って参ります。

ー 2023 年度 造形サークル実施記録 ー

4 月	楽器作り・春の草花で押し花	10 月	魔女の帽子作り、ハフェス装飾作り
5 月	フロッターージュ	11 月	ハフェス看板作り、クリスマス制作
6 月	ふるさとまつりアート提灯	12 月	おつパ装飾（宇宙をテーマにした飾り）
7 月	七夕飾り・ふるさとまつりアート提灯	1 月	スポーツ大会のくす玉作り
8 月	夏の壁面製作（ひまわり）、水彩画	2 月	ハートの飾り・おひなさま
9 月	切り絵、オリジナルめがね作り	3 月	入所式装飾

2- スポーツサークル



スポーツサークルは、身体を動かし体力の維持を目的に行っています。それに加えて、今年度、ボウリングサークルと合併しました。天気の良い日は外でスポーツをし、天気の悪い日は、室内でボウリングをしています。外では、サッカーボールを持って、近くの公園までウォーキングし、ブランコやすべり台・サッカーをして自由な時間を過ごしています。室内のボウリングに関しては、ボウリングが好きで、毎回熱心に参加している仲間も数多くいます。今年から、3,4 ヶ月に一度、ボウリング場に赴き、プレイするようになりました。

○ リーダーとして！

スポーツサークルは、毎回参加する仲間が多くいます。その中でも、仲間のために、自分の役割だと考え皆をまとめてくれる、Aさんのエピソードを紹介します。

ボウリングでは、ホームの部屋をレーンに見立てて、みんなで作ったペットボトルのピンと、柔らかいボールで練習を行っています。Aさんは、参加している仲間が、ボールを投げる順番を決めてくれています。「次は、〇〇さんの番だよ」と声掛けや、倒したピンを自ら率先し立て直すなどの進行を率先して職員と行ってくれています。他にも、ウォーキングに行く前に仲間の点呼を行ってくれています。「ここに集まってー！」や、「みんな出発するよー！」と、仲間に声を掛けてくれます。スポーツサークルのリーダーとして引っ張っている様子が見られています。

ホームや活動班とは違う組織の中で、スポーツサークルをまとめるAさん。サークルを続けていくうちに、Aさん自らが「自分の役割」を考えて動いてくれます。エピソードにもありますが、倒れたピンを立て直すのは、仲間の為を想って行動に移した素敵な姿でした。

3- カラオケサークル

本年度より新しく始まったカラオケサークル。歌を歌う事が好きな仲間が地域交流ホールに集まり、壁にプロジェクターで映し出された歌詞を見ながら歌っています。まるでカラオケボックスで歌っている様な雰囲気です。

ここではYさんと仲間が、カラオケサークルを楽しみにしているのだという様子を紹介させていただきます。



登所するとカラオケサークルを選択した仲間は、「今日はこの曲を歌いたい！」と職員に笑顔で伝えてくれ、廊下にあるホワイトボードに自分の写真と歌いたい曲を書き込みます。

昼食後カラオケサークルが始まる前になると職員に「カラオケの準備をしよう！」と職員に声をかけてくれるYさん、そしてYさんと準備をしていると、カラオケサークルを選択した仲間が次々にホールに集まって来て、協力して準備を行ってくれます。ホールにあるテーブルを移動する仲間、椅子を並べる仲間、並べられた椅子に座り笑顔で待っている姿が見られます。そして、カラオケサークルはYさんの挨拶から始まり、仲間が歌っている時は、皆で手作りのマスカラを振り盛り上げています。1時間40分のサークルの時間があっという間に過ぎてしまいます。

9月には実際にカラオケボックスへ行き、楽しく歌う事が出来ました。カラオケサークルでは、今後もこのような姿が多く見られるサークル活動を行っていききたいと思います。

まとめ

サークルは、隔週の水曜日に自ら選ぶことが出来ます。一人ひとりが好きなサークルを選びつつ、楽しみながら参加されている姿が毎回見られます。エピソードにもありますが、仲間や職員のことを気にかけて仲間の気持ちも考える姿が見られたのは、好きな活動や、やりたい活動を選べる、サークルという集団であるからだと思います。

来年度も仲間の素敵な姿が見られるように、活動を充実させたいと思います。



04 | 地域貢献事業

地域コーディネーター 宮本 英恵



私たちの使命は、「地域の中で・地域のために・地域に必要とされる（愛される）施設を目指して、地域に根差した活動を展開していくこと」です。今年度も様々な取り組みに挑戦しました。以下にご紹介いたします。

私たちと繋がりのある、地域の
ヒト・コト・モノを示しています。

1. ノウフク連携、はじめました。

農福連携とは、農林水産省と厚生労働省が連携している取り組みです。農林水産省のHPによれば「農福連携（農業と福祉の連携）は、障害者が農業分野での活躍を通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取り組み。農福連携の取り組みは、障害者の就労や生きがい等の場の創出となるだけでなく、農業就業人口の減少や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながるもの」としています。

四街道市でも、障がい者支援課が主催している自立支援協議会就労支援部会の発案で、はちみつがチャレンジすることとなりました。今年度6月から、長崎農場さん（四街道市大日）へ、毎週農作業のお手伝いに行っています。8月には、農福連携研究の第一人者である、吉田行郷教授（千葉大学）をお招きした講演会があり、長崎さんと共に、実践者として発表に臨みました。参加者から、はちみつの仲間たちが生きいきと活躍している姿に、励ましとお褒めの言葉をいただきました。

来年度も引き続き、長崎農場さんにお伺いしつつ、新しい連携にも挑戦して行きたいと考えています。



ノウ フク

2. ボランティア、がんばっています。

昨年度に引き続き「日替わりシェフの店さくらそう」と「四街道市児童デイサービスセンターくれよん」さんでは清掃作業を行い、はっするファームさんからは、ひまわりの種取りと大豆の選別作業の依頼があり、取り組んでいます。

今年度より、はちみつの最寄りバス停でもあり小学校区になっている「みそら団地」でのボランティアが始まりました。みそら団地の自治会では高齢化による人手不足に、みそら小学校では少子化によるPTAの人手不足に悩んでいるということでした。「地域の困りごとを助けたい」という思いで、公園と小学校での清掃ボランティアがスタートしました。仲間たちは、地域の方からの「ありがとう」「助かります」という言葉を力に、毎回草取りや落ち葉集めを精一杯行っています。小学校の子どもたちからは、感謝のメダルを頂きました。来年度も引き続き、地域のためにはたらかたいと思います。



3. 地域との架け橋、「888 アート」

「アートは、言葉で表現することが難しい人にとって、社会や他者とのコミュニケーションツールになり得る」と考え、アート活動に取り組んでいます。地域の中での存在感を意識して、はちみつで生まれるアートを「888 アート」と呼んでいます。これまで、888 アートは、市内の販売会のチラシや、ふるさとまつりチャリティTシャツのデザイン等に起用されました。アートをきっかけに、私たちのことを知ってもらうことで、障がい理解の促進や啓発に繋がると考えます。888 アートは、私たちと地域との架け橋のひとつなのです。



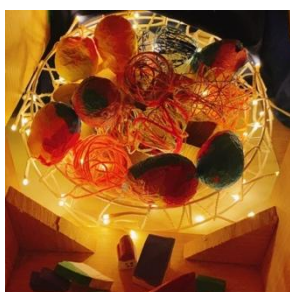
■ 「HoneyCome!!2023 さんみつ ～みつける・みつめる・はちみつ～」



今年度も5/9(火)～14(日)に、四街市民ギャラリーにて開催しました。コロナ禍でよく聞かれた「さんみつ」という言葉を言い換えてテーマとした、3回目の作品展には、6日間で計337名の方にご来場いただきました。案内ハガキにある8コの作品をみつけて、丸シールを貼っていくという企画は、子どもだけでなく大人の方も楽しく参加されていました。探しながら、自然に一点一点じっくりと立ち止まって鑑賞していただきました。仲間たちの作品を「いかに観てもらうか」という課題に対し、ゲーム感覚で鑑賞を促したこの企画は大好評した。

「いかに魅せるか」もまた毎回の課題です。今回も、額装や搬入には、地域のアート関係者の皆さまに大変お世話になりました。きちんと額装して展示することも大切ですが、日常に溢れている888アートを「ありのまま」「自然体」で届けるにはどうしたら良いのか、職員間でアイディアを出し合い、展示形態を決めました。

Mさんは、毎日手紙を書き、いろんな人に配っています。その行為そのものが表現であり、その溢れる想いを「手紙」という作品として、定点で展示するとしたらどのような形態が良いのか…。悩んだ末、たくさん繋げて湧き出ているような形にしました。最後に展示を仕上げた職員は、壁にも手紙を散らばせて貼りつけ、爆発しているようにして、見事にMさんの溢れる想いが表現されました。



虹のもとが製作した「おたまごちゃん」は、イースターイベントで使ったものです。和紙や毛糸が卵形の張子になっており、とても素敵でしたので、イベント後も保管しておきました。展示にあたり、イベントを担当した職員に「はちみつでの楽しさが伝わるように展示したい」と相談した所、暗い箱に入れてライトアップし、のぞき込んで観るという方法を考案してくれました。さらにスマートフォンで撮影すると「映える!」という若い感性も光っていました。この鑑賞方法により、イースターでゲームを楽しんだ仲間たちのわくわく感をも感じられる作品展示となりました。

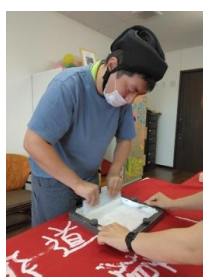


支援者として日々仲間の気持ちを汲んでいると、美術を勉強していなくても、仲間の想いをしっかりと表現して展示できるのだということが、本展で証明されました。職員は、仲間と地域の間に立つ存在であり、地域との橋渡しをします。言い換えれば、仲間の「作品」が地域との架け橋になるのです。実は、この作品展を観た市役所の方から、「四街道工業団地の廃材を使ってアート作品が作れないでしょうか」と相談がありました。そこから新たな展開に繋がります。市民ギャラリーで作品展を続けていた成果が確実に始まっています。888アートの躍進は止まりません。

■ ふるさとまつりチャリティTシャツ

今年も、四街道ふるさとまつりのチャリティTシャツに888アートが起用されました。昨年同様、多くの注文が入り、お客様からは「今年のデザインも素敵ですね!」「はちみつさんの絵だとすぐ分かりました」など、嬉しい声を頂戴しました。四街道市でも少しずつ障がいのある方のアートが浸透しつつあるように感じます。このTシャツをきっかけに、四街道市民の皆さまの障がい理解の更なる促進や啓発に繋がることを願います。

■ 市民ミュージカルの衣装



「ひみつのおしゃれ工房」さんが、市民ミュージカルの衣装担当になり、協力依頼がありました。四街道のガス灯をモチーフにした妖精の帽子と、「街」「道」柄の布をつくるという仕事でした。帽子は、濡らした段ボールを仲間達が剥がし張子の要領で形をつくり、色を塗りました。布は、文字を書くのが得意な仲間「街」「道」と書いてもらい、製版して、みんなで刷りました。「ミッチ」と「マッチ」という妖精の服になったそうです。初めての作業にも、みなさん楽しく取り組み、笑顔が絶えませんでした。これまでの888アートの実績から私たちをご信頼いただき、文化センターという大きな舞台での市民ミュージカルに関わることができました。

4. 地域の人々と「製品」をつくる



今年度から、養蜂家の青木さんが当法人の敷地（職員駐車場）に蜜蜂の巣箱を置いて、蜂蜜作りがはじまりました。みんなで採蜜し、青木さんが瓶詰めし、仲間たちがラベルを貼り、四街道産純粋蜂蜜「よつかいどうはちみつ」が誕生しました。おかげさまで、今年度に採蜜した分は完売しました。今後、地域活性化製品として進化していきそうです。「888アートてぬぐい」は新色が出ました。ひみつのおしゃれ工房さんとクレインズのコラボ製品として、フリルトートとヘアターバンを新しくつくりました。どちらも好評いただいています。

5. ハフェス、再スタート！



今年度の地域貢献事業の目玉は、なんといっても「ハフェス」でした。障がい福祉の啓発を目的として2020年に初開催以降、コロナで中止していましたが、たかおの杜に移転し、施設の隣にある広い公園を会場に再スタートしました。マルシェには、はちみつと繋がりのある福祉団体や農家さん、地域のお店に出店いただきました。ミュージシャンと音響業者は地元・四街道の方をお願いしました。はちみつでは、フェスを盛り上げるために、みんなで会場の装飾や看板の制作、駐車場整備など、開催に向けて仲間たちも職員も一丸となって、準備を進めました。市内の小学校・幼稚園・保育園などにもチラシを配布しました。その効果から、当日は多くのお子さん連れのお客様にご来場いただきました。来場者数はきちんとカウントできていないのですが、一時は駐車場3カ所中2カ所が満車になっていたそうです。会場が施設に近かったことで、仲間が行き来しやすく、八八八商店の販売や買い物、ライブに楽しく参加されていました。

また、はちみつのトイレを開放していたので、出店者様やお客様の出入りが自由でした。出店者のみなさんからは、野外イベントにも関わらず、綺麗なトイレを使えたことが大変好評でした。中には「障がい者施設に初めて入りました」「障がいのある方と初めて話しました」「施設のイメージが変わりました」といったお声も頂戴しました。トイレの開放が、私たちのことを知ってもらう機会となり、啓発につながりました。来年も引き続き開催し、四街道の恒例行事として定着していけるよう努めてまいります。



まとめ

今年度春より、愛国学園大学4年生の古市さんが、卒業研究のため、週一度、ボランティアにいらしていました。卒業論文『障がい者と地域のつながりに関する一考察』には、「施設内には地域とのつながりだけでなく、利用者同士、職員同士、利用者と職員のそれぞれのつながりが絡み合っていた。このような「仲間」としての施設内でのつながりが基盤となって、地域とのつながりを築くことができているのである。（古市小梅, 2024）」と述べられていました。さらには、はちみつの仲間たちと過ごすことで、彼女自身の障がいのある方に対する考えが180°変化していった様も書かれており、「知ることが差別をなくすこと」という気づきを得られていました。卒業論文は同大学の最優秀賞を受賞されたそうです。

古市さんの研究によって、私たちが普段感じていたことが客観的な言葉となりました。地域と繋がるためには、まず施設内にいる人同士が繋がっているということが前提です。施設内でのコミュニケーションの大切さを再考するきっかけとなりました。

来年度は、よつかいどう福祉会に『地域貢献事業部』が創設されます。冒頭の理念（使命）を形にするための事業部です。地域と施設とのつなぎ役であり、窓口となります。10月に「よつかいどうユニバーサル工業フェスタ」、11月に「ハフェス」を企画しています。全ての地域貢献事業に共通して、888アートの活躍が期待されます。地域連携を推進する上で、法人内での連絡・報告・相談を丁寧に行い、みんなで力を出し合って、取り組みたいと思います。そして、当法人も地域も、お互いに豊かに発展していけるよう尽力して参ります。

ー 2023年度 主な地域連携の取り組み ー

- 〈 コラボ事業 〉・ノウフク連携（四街道市自立支援協議会就労部会・長崎農場）
 - ・四街道ふるさとまつりチャリティTシャツ（四街道市自治振興課）
 - ・ハフェス（地域の福祉団体・個人商店・農家さん）
 - ・よつかいどうユニバーサル工業フェスタ

＜ コラボ製品 ＞

- ・「ひみつのフリルトート」「ひみつのヘアターバン」織物製作（ひみつのおしゃれ工房様）
- ・ 四街道産純粋蜂蜜「よつかいどうはちみつ」（養蜂家の青木さん）
- ・「なかまカレンダー2024」カレンダー立て製作（社会福祉法人いぶき福祉会様/岐阜県）
- ・「まちのちいさな図書館」可動式本棚製作（四街道市立図書館）

＜ 販売会 ＞

- ・ 6/17（土） 大きなテーブル@四街道市文化センター
- ・ 8/19(土)20(日) 四街道ふるさとまつり@四街道市中央公園
- ・ 9/16（土） みの市@よもぎの里
- ・ 9/18（月祝） ユニバーサル農業フェスタ@四街道市文化センター
- ・ 11/3（金祝） Y・Y・KNOWSON秋まつり@四街道市吉岡
- ・ 11/25（土） ハフェス@たかおの杜第3公園
- ・ 3 /16（土） 森まつり@四街道プレーパークどんぐりの森

＜ ボランティア ＞

- ・ 日替わりシェフの店「さくらそう」／毎月第4月曜日
- ・ 四街道市児童デイサービスセンター「くれよん」／毎週月曜日
- ・ はっするファーム／月曜日随時
- ・ 長崎農場／毎週月曜日他
- ・ みそら団地 第11号公園、第13号公園／毎月第1,3,5月曜日
- ・ みそら小学校／毎月第2,4月曜日



05 | 行事報告

2023年度 年間行事・イベント実施一覧

月	施設内行事	対外イベント
4	入所式 / 筍掘り	
5	ハイキング	Honey Come!! 2023
6		大きなテーブル
7	流しそうめん	
8	虹の夏祭り！	
9	サークル外出（カラオケ・ボーリング）	ユニバーサル農業フェスタ
10	ハロウィン	
11		ハフェス
12	もちつき / お疲れさまパーティ	
1	成人を祝う会 / 新春！スポーツ大会	
2	豆まき	
3		

ハイキング



5月、『みんなで楽しく歩こう！』を目的に『たかおの杜』から『四街道総合公園』までの道のりを歩きました。天候にも恵まれました。今回の道のりは、木陰がとても多く、仲間同士「涼しいね」「気持ちいいね」と励ましあいながら歩く姿が多く見られていました。先頭グループからの「あとちょっとでお弁当！」「がんばれ！！」という応援が、後方グループへ届きました。そんな後方グループの仲間は、



表情がパッと明るくなり、力になる瞬間を見ることが出来ました。

流しそうめん



7月、たかおの杜では初めてとなる屋外でのながし
そうめんを行いました。当日の午前中は竹の節取りか
らスタート！暑さにも負けず、流れやすくなるように
磨きました。水で洗い流す際には仲間同士で「一緒
にやろうよ！」と声を掛け合う姿も見られ、太陽のも
とでキラキラと輝く笑顔と水しぶきがとても素敵でし
た。

また、各ホームに麺のほかに具材も決めていただき、カニカマ、たまご、かまぼ
こ、寒天も流して楽しみました。

2 ホームずつに分かれて、いざスタート！沢山食べたくて上
の方で待ち構える方、麓に溜まったそうめんを発見してこっそり食べる方など…楽し
みながらも食べるぞ！というような熱い気持ちが伝わってきました。そのような中
でも、皆が楽しめるように場所を替わる、たくさん食べたいけど譲るなど、側
楽仲間た
ちの姿も見られました。一通り楽しみ、最後には室内でお皿に盛りつけたそうめんも
しっかりといただきました。2023年の夏は大変暑い日が多く続きましたが、この日
ばかりは全力で夏を楽しむことができました。



新春スポーツ大会

1月の新春スポーツ大会は、初めて企画したイベントになります。目的として、「一つの目標に向か
って協力し合い、成し遂げることで仲間同士の関係を深めること」を掲げていました。もちろん、楽し
むことは大前提です。内容としては、ホームごとにそれぞれの強みを生かした種目を企画し、全6種目
(一輪車リレー、凧あげ、卵のバックにピンポン玉入れ、球入れ、〇×クイズ、くす玉くじ)で競い合いま
した。実際に種目に取り組んでいる際には、仲間同士で大きな声援を送り合い、どんなに負けていても

諦めずに勝利を目指す姿や勝利を手にした時にはハイタッチをして喜びあう姿が見られたことが印象
的です。仲間に限らず、職員も含めて絆が深まったスポーツ大会になったと感じています。来年度もよ
り良い関係づくりができるようなイベントをつくっていききたいと思います！



(左：毎年恒例の「凧あげ」は、新春スポーツ大会の競技として行われました。／中央：玉入れ／右：くす玉)



(左：おつかれさまパーティーでの一コマ／中央：晴天に恵まれた餅つき／右：豆まき後に大きな赤鬼と)

06 | 職員研修

今年度は『支援力を高め、チーム力を高める』という研修を行いました。中でも、下記に記述していますが、9月の『夜明け前の子どもたち』の視聴研修（外部講師を招いての研修）と、2月には、講義を聞く形ではなく職員自身が発表するというアウトプットを大切にした研修を行いました。

2023年度 職員研修実施一覧

月	テーマ
4月	チーム力を高める Part①
5月	支援部長による支援力を高めるには
6月	感染症対策について
7月	虐待防止と身体拘束の適正化について
8月	チーム力を高める Part②
9月	療育記録映画『夜明け前の子どもたち』を視聴して
10月	意思決定支援について
11月	災害時の対応について（BCPの確認）
12月	資料：『教育という仕事』読み合わせ
1月	感染症拡大防止のため中止
2月	『私たちの使命とは』職員研究発表
3月	法人理念と権利擁護について（全職員参加）

〈外部研修〉

日付	研修名	主催者	講師	参加人数
4/8	「親亡きあとへの備えと 成年後見制度を考える」	佐倉市南部包括支援センター	社会福祉法人愛光 理事 弁護士 吉野智氏	1名
6/15	「千葉県立盲学校第1回 オープンスクール」	千葉県立盲学校	茂木先生、志田先生	3名
7/17	こども・アート・障害を考える	千葉アール・ブリュット センターうみのもり	東京学芸大学教授 花澤洋太氏 （うみのもり評議委員） 植草学園大学副学長 野澤和弘氏	1名

			(うみのもり特別顧問) 美術家 クリスティーン・プレ氏	
8/23	千葉県中核地域生活支援センター大会 「総合相談って何？～相談支援の根っこを考える～」	千葉県地域生活支援 センター連絡協議会	同志社大学 社会学部 社会福祉科 空閑浩人氏 他	1 名
9/29	令和 5 年度第 1 回障害福祉事業所等研修会 「虐待防止委員会の運営＝権利擁護支援の考え方～」	四街道市福祉サービス部 障害者支援課 基幹相談支援室	一般社団法人 千葉県権利擁 護支援ネットワーク理事 滑川聡美氏	1 名
10/5	令和 5 年度 印旛圏域精神障害にも対応した 地域包括ケアシステム構築推進事業 ピアサポート講座「ピアスタッフが必要なわけ」	印旛圏域精神障害にも対応した 地域包括ケアシステム構築会議	ピアスタッフネットワーク 事務局長 飯野雄治氏	2 名
11/5	発達保障講座 「発達保障の為に教育環境・学校設備を考える ～障害者権利条約総括所見（勧告）との関りで～」	全国障害者問題研究会 千葉支部 共催：きょうされん千葉支部	立正大学社会福祉学部 社会福祉学科 教授 児嶋芳郎氏	3 名
12/8	令和 5 年度 印旛圏域精神障害にも対応した 地域包括ケアシステム構築推進事業 ピアサポート講座「船橋のピア活動と私たちのリカ バリーストーリー」	印旛圏域精神障害にも対応した 地域包括ケアシステム構築会議	船橋市地域活動支援セン ター「オアシス 施設長 住吉則子氏 ピアスタッフ 長谷川三枝氏、松井智雄氏	2 名
12/19	令和 5 年度 四街道市児童及び配偶者等に対する暴力 防止対策地域協議会（要保護児童対策協議会） 第 2 回実務者部会全大会 「ヤングケアラーについて考える～私たちにできること～」	四街道市	一般社団法人 Omoshiro 代表理事 勝呂ちひろ氏	2 名
R6 2/3	みんなで知ろう！選挙のこと	四街道市福祉関係機関連絡会	障害をもつ人の参政権 保障連絡会 高梨恵子	7 名
2/11,12	ガイドヘルパーから始めよう！！in 八千代	一般社団法人 たからばこ	府中市役所障がい福祉課 平井勝氏 シュガーハート訪問看護 西山めぐみ氏 一般社団法人たからばこ 保坂栄美氏、伊藤健一氏	1 名
2/17	春の発達保障講座 障害者権利条約「総括所見に」について 福祉的就労をめぐる状況 人絹モデルに焦点を当てて	全国障害者問題研究会 千葉支部 共催：きょうされん千葉支部	きょうされん常務理事 赤松英知氏	2 名
2/19, 3/1	令和 5 年度 千葉県相談支援従事者専門コース別研修 「精神障害者の障害特性と支援技法を学ぶ研修」	千葉県	ひだクリニック 肥田博久院長 他	1 名
3/5,12	強度行動障害支援者養成研修	未来ケアカレッジ		1 名
3/12	令和 5 年度 障害者虐待防止・権利擁護専門研修 「職員のメンタルヘルスについて」	千葉県	社会福祉法人フラット 理事長 林晃弘氏	1 名
3/12	令和 5 年度障害者虐待防止・権利擁護専門研修 「虐待につながる身体拘束の防止について」	千葉県	社会福祉法人フラット 理事長 林晃弘氏	1 名

■ 9 月・療育記録映画『夜明け前の子どもたち』を視聴して

全国障害者問題研究会 千葉支部 事務局長の瀧川恵里子氏を招き、療育記録映画『夜明け前の子どもたち』を上映して研修を行って頂きました。そこでは、映画の時代背景と、発達の基礎についてお話がありました。研修を通して、横の発達の大切さ、はたらくことを通して仲間同士の関係が作られ、一人ひとり発達に繋がっていくことを再確認できました。映画の中で大事なポイントを抜粋してくださり、考え方や支援に活かせるようなわかりやすい講義でした。研修後に、なぜそのシーンが大事だったのか職員同士で話し合いました。常に基本に戻って、仲間を考えることが大事なのだと感じました。映画の中で、今だったら虐待に当たるような行為や、間違っているとされる支援もありました。しかし、様々な立場の人たちが子どもたちの発達について考え、話し合い、実践し、試行錯誤を繰り返している姿は、

大変勉強になりました。映画を通して、障がいがある方たちの権利とは何か、個人の尊重とは何か、を知ることが出来た研修でした。

■ 2月・『私たちの使命とは』職員研究発表

正規職員 10 名が2つのグループに分かれ、話し合い、まとめた内容を一人ひとりが発表する機会となりました。2つのグループは、アダルトチーム（平均年齢 47 歳）とヤングチーム（平均年齢 27 歳）に分かれて活動を行いました。日々の業務の中から時間を作り、各グループで何度も話し合いを重ねました。

アダルトチームでは、『「私たちの使命とは」～はたらくなかまに、私になる～』をキーワードに、事業理念を形にするため、職員同士が連携し協力し合いながら、自分たち自身もなかまとして繋がっていくこと、その為には職員間のコミュニケーションが大切であるとして、「どうしたら自分たちもなかまになれるのか」を考察していきました。その中で、職員間で支援について話をしているときに使っている言葉でも人によって解釈が色々あり、共通認識が測りにくいと感ずることがあると話し合いの中で意見が出ました。そこで、いくつかの支援に関係する言葉を選び、「その言葉を自分はどのように考えているのか、使っているか」というアンケートを全職員に向けて行いました。今回の調査では、「居場所、手応え、側楽（はたらく）、見通し、寄り添う、普通の人」という6つの言葉について調査を行い、結果をはちみつ用語辞典にまとめました。「普通の人」という言葉については、様々な回答があったため、辞典にまとめることはせず、全回答を別紙にて紹介しました。アダルトチームでは、辞典を作ることが目的ではなく、多様な価値観を持つ職員集団が「なかま」として同じ方向を向いていく道標となることを願うと結論付けています。

ヤングチームでは、前回職員研修で取り上げられた「教育という仕事」（前田恵美氏）の資料をもとに考えを膨らませていきました。資料の中から私たちの使命は、「なかまの人間らしさを充実させていくことではないのか」というだけでなく、「分からなくても、楽しい。なにかワクワクするという気持ち」なのではないかと前述の資料より読み解く場面もありました。他にも、ヤングチームには、事務の職員も居たことから、事務員としての使命として「職員の生活を守る、施設全体の財政を円滑に回す」といった内容も発表されていました。事務員、支援員という各々の立場によって自分の使命が異なってくることに注目した後、法人全体の使命について法人のリーフレットや支援マニュアルを基に考えを深めていきました。最後に、「一人ひとりの使命が重なり合うことで、はちみつ全体の理念が出来上がっていく」とチーム全体としての考えをまとめられていました。一人ひとりの考える使命の内容は若干異なる部分があるものの、法人全体の使命と通ずるものがあり、それぞれの使命を果たすことで、法人全体の使命を果たすことが出来るのではないかと結論付けています。

それぞれのチームが 20 分と決められた時間の中で発表を行い、気になったことに関しては積極的に意見交換を行う機会となりました。

本研修には、元特別支援学校養護教諭の任海園子氏が参加してくださいました。「利用者も、支援員も人間なので、それぞれ相性があると思う。それは、その支援員のせいではない。そのような状況を職員集団で支えていくことが大切。研修の中で出た「人間らしさ」も奥深い言葉だと思う。かかわる人達の想いが形作られていくと思う。はちみつなら探していくことが出来る。」と感想を述べられていました。

07 | 健康管理

2023年度 はちみつ保健計画

4月		7月	健康診断	10月		1月	歯科検診
5月		8月		11月	予防接種	2月	
6月		9月		12月		3月	

◎嘱託医 随時相談 ◎体調チェックシートの確認・実施 ◎体重測定（月1回）

7月 健康診断

協力医療機関「轟クリニック」の医師・看護師が来訪され、はちみつで実施いたしました。
○身体計測 ○採血 ○視力・聴力 ○胸部X線検査 ○心電図検査
健診結果に基づき、個別で健診内容及び再度医療機関受診のお知らせをしています。
前年度の健診データと比較し、健康状態の把握に取り組みました。今後は、予防医療に目を向け、生活習慣の振り返り、健康増進に努めていきたいと考えております。

11月 インフルエンザ 予防接種

希望者を募り「轟クリニック」の医師・看護師が来訪され、はちみつで実施いたしました。
事前に実施する順番を決めたり念入りに声かけを行い、当日の注射に臨みました。苦手だから…無理ではないか？…と思われた仲間も、強い拒否なく実施する事ができ、驚き感動しました。

2024年1月 歯科検診

プラムデンタルオフィスの歯科医師・歯科衛生士が来訪され講話と共に口腔内チェックとブラッシング指導を実施いたしました。普段と変わらない環境だったため、安心して受けることができました。

服薬管理

- ・御家族に御協力いただき、新しいフェイスシートを作成していただきました。これにより通院状況や服薬状況を把握することができました。
- ・服薬はとても大切なことです。変更があった際は、服薬の状況を御家族から御連絡いただけるよう依頼しております。
- ・薬剤情報提供文書を提出していただき薬の管理を行っております。
- ・普段、服薬している薬を非常時・災害時用の予備薬として用意していただき、医務室で保管しております。（4月・10月交換作業実施）
- ・てんかん発作時および体調不良時の対応「医療的ケアに関する指示書」を主治医に記載していただき医務へ提出。指示書に基づき医療的ケアである座薬挿肛・頓服薬の投与を実施しております。
- ・昼薬の薬セットおよび配薬については、薬セット時・配薬時は看護師によるダブルチェックに加え、投与者もチェックを行い、誤薬や飲み忘れがないように心がけております。
- ・薬品管理については、施錠可能な場所で保管し、誤飲等事故が起こらないように注意しております。

感染予防

- 感染症対策として以下の内容を実施しております。
- ・検温の実施（登所時、昼）
 - ・体温チェックシートの確認、状況把握
 - ・マスクの着用、手洗い消毒の徹底
 - ・施設内、車内、コップ等の消毒実施（毎日）
 - ・嘔吐処置ボックスの管理、設置
 - ・感染症予防研修
- 今後は環境整備に力を入れ、状況に合わせ検討・対策を継続していきたいと考えております。

医務の取り組み

- 利用者と職員の健康管理と安全な保健衛生管理に努めております。

- ・ケガの処置
- ・誤嚥時の対応
- ・スキントラブル時の対応
- ・感染症発症時の対応
- ・体調不良時の対応
- ・バイタルサインの測定
- ・保清（爪切り、耳垢除去、手浴、足浴、清拭等）
- ・御家族からの医療相談
- ・てんかん発作時の対応
- ・精神不安定時の傾聴対応
- ・通院同行

08 | 利用状況

（令和 6 年 3 月 31 日現在）

出席率

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間
91.7	88.0	97.0	94.2	96.1	93.1	95.4	95.3	92.5	93.8	96.1	95.5	94%
22	22	23	23	22	21	23	22	22	22	21	22	265 日

利用者状況

年齢別構成

年齢	20 歳未満	20～29	30～39	40～49	50～59	60 歳以上
男性	1	17			3	2
女性	1	4	1	3	3	1
合計	2	21	1	3	6	3

療育手帳別構成

	㊦	B2	B1	A2	A1	㊦1	㊦2
男性	2				12	3	4
女性	1	1	2		5		3
合計	3	1	2		17	3	7

身体障害者手帳 1 種 1 級所持 1 名 3 級 1 名 6 級所持 1 名

精神保健福祉手帳 1 級所持 3 名

障害支援区分

区分	6	5	4	3
男性	13	5	5	0
女性	5	7	1	
合計	18 人	12 人	6 人	0 人

居住地

四街道市在住 28 名 千葉市在住 6 名 佐倉市在住 2 名

法 人 事 業 計 画

- 1、法人理念
- ・ 人格、人権の尊重をすべての支援活動の基本とする。
 - ・ 利用者自らの生活を自らの意思で選択・決定できるよう、可能な限り本人の意思を尊重し自己決定できるように支援する。また、その中で各々の自己実現が図れるように支援する。
 - ・ 地域に開かれた施設、地域に必要な施設となることを目指す。

- 2、法人の事務処理
- 法人の事務処理は、理事長職務者及び法人事務員がおこなう。

- 3、資金計画
- 独立行政法人福祉医療機構及び京葉銀行からの融資を受け、別紙支払計画の通り、実施する。

(千円)

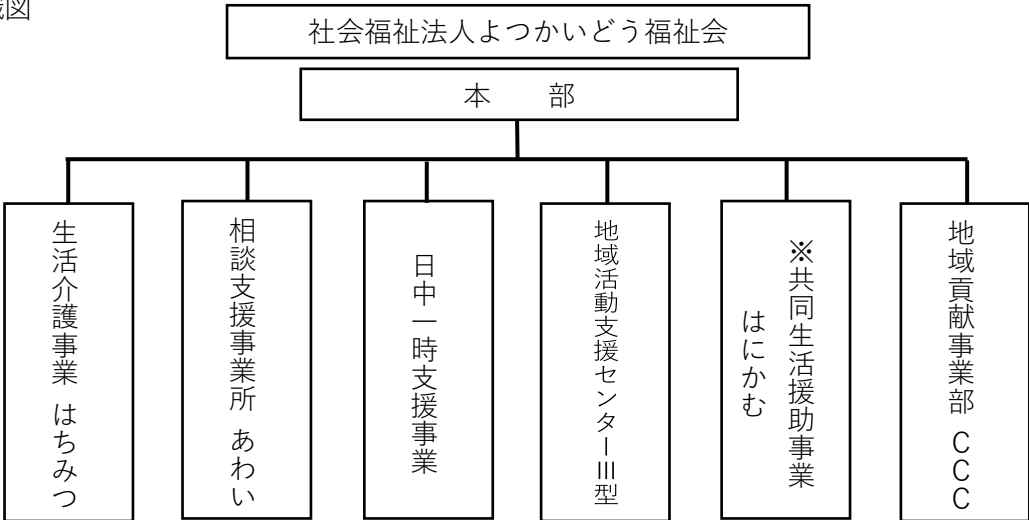
借入先	当初借入額	償還済額	当期償還額	借入残額	備考
独立行政法人福祉医療機構	151,500 千円	366 千円	606 千円	151,500 千円	施設整備 (3 年間据置)
京葉銀行	50,000 千円	50,000 千円	0 円	0 円	施設整備
京葉銀行	15,000 千円	679 千円	991 千円	13,760 千円	施設整備
計	216,500 千円	51,045 千円	1,597 千円	165,260 千円	

- 4、役員会の開催等

開催時期	主な議題
2023 年 7 月	・ 定款の変更等（理事会・評議員会開催）
2023 年 9 月	・ 補正予算案及び定款変更等について（理事会開催）
2023 年 10 月	・ 補正予算案及び定款変更について（臨時評議員会開催）
2023 年 12 月	・ 四街道市福祉作業所指定管理決定
2024 年 2 月	・ 事業計画案、予算案、GH 建設の入札について（理事会開催）
2024 年 3 月	・ 事業計画案、予算案、GH 建設の入札について（評議員会開催）
2024 年 5 月	・ 定時評議員会開催予定

上記のほか、定款に定められた議決事項及び重要事項を審議するため、適宜、役員会を開催する。

- 5、法人の組織図



2023年度 生活介護はちみつ 事業計画

I 趣旨

昨年度は、年度途中である9月からたかおの杜に移動して、定員35名で運営致しました。本年度は、学校を卒業し通所される方が1名あり、計33名の方が在籍することになります。引っ越しをしてからも、利用者は遅しく、元気に当施設で毎日を過ごす姿がとても印象的です。未だ新型コロナウイルス感染症の影響もありますが、施設内の換気、消毒を徹底し、利用者やそのご家族が安心、安全して日中生活が送られることができるよう支援をさせて頂きたいと思っております。

事業理念

- ・地域で、普通の、人としての生活を送ることができるよう支援する。
- ・地域の中で、地域のために、地域に必要とされる（愛される）施設を目指す。

支援方針

- ・人格、人権の尊重をすべての支援活動の基本とする。
- ・利用者自らの生活を自らの意思で選択・決定できるよう、可能な限り本人の意思を尊重し自己決定できるように支援する。また、その中で各々の自己実現が図れるように支援する。
- ・地域に開かれた施設、地域に必要な施設となることを目指す。

支援方法

- ・安心、安全な生活が送れるよう支援することを基本とする。
- ・三間しょう（時間・空間・人間）の視点を持って支援することを基本とする。
- ・得意な所に目を向け、苦手な所に手を当てる支援を基本とする。
- ・周りの人を楽にすることが本当の意味で側楽（はたらく）ということを支援の基本とする。
- ・一人ひとりの長期的及び短期的支援目標を設定し取り組む。目標設定に際しては、本人及び家族との協議を行い一体的な支援を基本とする。
- ・本人への支援と一緒に、家族への支援も同時に支援する。
- ・支援の重点目標を設定し、支援方法を確立する。

II 事業計画

1	定員	35名以下
2	職員	管理者 1名（兼務可） サービス管理責任者 1名以上（兼務可） 生活支援員 1名以上（常勤11名、非常勤（17名）在職） 看護職員 1名以上（非常勤2名在職） 医師 必要数（嘱託医）
3	支援態勢	安全対策を前提にし、利用者が安心して楽しい生活が送れるよう、創意工夫し生活の中で充実感をもてるように、作業での手ごたえや仲間との関わり、地域貢献活動を大切に、生活の場を構築することを目指す。

III 重点目標

1 支援や取り組みの充実

支援方法を基本におき、利用者が主体的な活動を通して、手ごたえを感じられるよう支援し取り組む。さらに、集団の発達の視点をもって支援し取り組む。

ホーム活動

- 春のいろ 健康維持向上を目的に運動をおこない、利用者さんと一緒に職員も含めてコミュニケーションを図り、集団を意識した取り組みを行っていく。
- 虹のもと 本人のやりたい気持ちを大切に、達成感を得られるように支援する。
- 花あかり 生活の中でメリハリを意識し、見通しをもって活動ができるように支援する。
- 黒のビロード 一人ひとりの居場所をつくり、役割を通して、手ごたえを感じてもらえるように支援する。

生産活動

- タートルズ（木工・箒）利用者が手ごたえを感じられるように、一人ひとりに合わせて作業環境を工夫し、作業計画を立て、『誰かのために』を明確にし意識して制作をするよう支援する。
- クレイNZ（織物）目的をもって製品作りに取り組み、見通しをもってよりやりがいや手ごたえを感じてもらえるように支援する。
- ゴーツ（清掃）利用者一人ひとりのやりがいを感じてもらえる支援をおこない、地域に根ざした活動を展開していく。

2 家族支援

- ・利用者支援に留まらず、家族に対しても寄り添った支援を行う。
また、利用者支援のための連携や、情報交換ができる場をつくり、支え合える体制を構築する。

3 職員研修

- ・職員の質の向上を目的に、毎月一回以上の研修を行う。
また、外部の研修も定期的に参加し、自己啓発に努める。

4 他事業、他法人との連携

- ・他事業所、他団体と合同のイベントの企画やイベントの参加など、外部との繋がりを持ち、地域に対して福祉事業等を啓蒙する活動を行う。

5 ボランティア活動

- ・地域の中で、利用者が主になってボランティア活動を行い、地域のために活躍し、手ごたえを感じられるよう支援する。また同時に、法人職員も地域に貢献するように努める。

2023年度 相談支援事業所あわい 事業計画

I 趣旨

四街道市やその近隣の市（千葉市、佐倉市）で暮らす障害児・者の生活全般における相談や必要な福祉サービスの利用に関する情報を提供いたします。また、サービス等利用計画の作成、モニタリングを行い、ご本人やご家族のニーズに合った生活を送ることができるよう、ご本人やご家族に向き合いながら、迅速且つ丁寧に相談支援を行います。

II 事業の内容

利用される方、一人ひとりに向き合い、障害福祉サービスの利用に向けたサービス利用計画作成及び手続の支援を行います。社会資源の把握に努め、ご本人やご家族が楽しく、豊かに生活できるよう支援致します。

III 従業員の人数 管理者 1名（常勤1名） 相談支援専門員 2名（非常勤2名）

IV 研修の企画運営 虐待防止等や意思決定支援等の障がい者における権利擁護を中心に法人内で研修を企画、または外部研修に参加致します。

2023年度 日中一時支援事業 事業計画

I 趣旨

在宅の障害児者の日中における活動の場を確保し、障害児者等の家族の就労支援及び障害児者を日常的に介護している家族の一時的な休息を供与し、障害児者及びその家族の地域における日常生活及び社会生活を支援する。

II 事業の内容 日中活動に対しての支援及び余暇活動の支援を行う

III 利用定員 1日あたり3名以内

IV 営業日及び営業時間 月・火・水・木・金・土曜日 8時30分～17時15分時間外は要相談
※（法人の定める日、及び国民の祝祭日、日曜日、12月29日～1月3日は除く）

V 対象地域 四街道市・千葉市・佐倉市

10 | 2023年度 社会福祉法人よっかいどう福祉会

法人事業報告

1 法人理念

- ・人格、人権の尊重をすべての支援活動の基本とする。
- ・利用者自らの生活を自らの意思で選択・決定できるよう、可能な限り本人の意思を尊重し自己決定できるように支援する。また、その中で各々の自己実現が図れるように支援する。
- ・地域に開かれた施設、地域に必要な施設となることを目指す。

2 法人の事務処理

法人の事務処理は、理事長職務者及び法人事務員がおこなう。

3 資金計画

独立行政法人福祉医療機構及び京葉銀行からの融資を受け、別紙支払計画の通り、実施する。

(千円)

借入先	当初借入額	償還済額	当期償還額	借入残額	備考
独立行政法人福祉医療機構	151,500 千円	366 千円	606 千円	151,500 千円	施設整備 (3年間据置)
京葉銀行	50,000 千円	50,000 千円	0 円	0 円	施設整備
京葉銀行	15,000 千円	679 千円	991 千円	13,760 千円	施設整備
計	216,500 千円	51,045 千円	1,597 千円	165,260 千円	

4 役員会の開催等

令和5年度 理事会開催状況

日付	議案	出席状況
令和5年9月20日	1号議案 令和5年度補正予算案について 2号議案 令和5年度事業計画案について 3号議案 定款変更について 4号議案 臨時評議員会の開催及び定時評議員会の開催について	8名中8名 (内1名同意書、 書面表決書有)
令和6年2月13日	1号議案 令和6年度予算案について 2号議案 事業計画案について 3号議案 GH建設においての入札について及び定時評議員会の開催について	8名中6名出席 (理事5名、監事 1名、書面表決及 び同意書有)

令和5年度 評議員会開催状況

日付	議案	出席状況
令和5年5月28日	1号議案 令和5年度予算案について 2号議案 令和4年度事業報告及び計算書類について 3号議案 令和5年度（2023年度）事業計画について 4号議案 監事の改選と選任及び理事の改選及び選任について	7名中7名出席 （書面表決及び同意書有） 監事2/2中出席
令和5年10月29日	1号議案 補正予算案について 2号議案 令和5年度事業中長期計画について 3号議案 定款等の変更について	7名中7名出席 監事1/2名中出席
令和6年3月9日	1号議案 令和6年度予算案について 2号議案 事業計画案について 3号議案 GH建設に向けての入札について 4号議案 定時評議員会の開催について	7名中5名 （書面表決及び同意書有）

5 法人の総合的な取り組み

■ 組織運営・経営

2023年9月1日で1年が経過する。社会福祉法人よつかいどう福祉会として、生活介護はちみつ、相談支援事業あわいの運営を行う。今年度は昨年度よりも具体的にボランティア活動を増やす（みそら自治会、みそら小学校など）こと、地域に根ざした活動（生産活動では、地域と繋がりをもった製品及び販路拡大や農福連携の実現）を図る。生活介護はちみつの清掃作業班ゴーツが、地域振興財団様から公園除草の委託を受け活動を開始し、本人支給金（工賃）に大きく還元することができた。市内の農家との連携として、四街道市初の農福連携を実現した。第2回『ハフェス2023』も、施設を拠点にして実施する。職員、利用者、家族、地域、行政等の協力のおかげで盛大なイベントとなった。母体となる生活介護事業所が中心となり、啓発活動及び地域貢献活動をひとつにした活動やイベントを行うことができた。8月に四街道市福祉作業所の指定管理者一般公募があり応募する。令和6年1月、四街道市と協定を結び令和6年4月1日より、地域活動支援センターⅢ型四街道市福祉作業所の指定管理者として運営が決定する。

ア. 虐待防止委員会身体拘束適正化委員会等の開催、運営について

利用者の尊厳と人権擁護の観点から、既存の各会議、委員会、外部委員と共に虐待防止等の取り組みについて広く検証し、改善に努めることを目的とする委員会を年3回開催した。日々の取り組みの中で生じている状況等を伝え、検証・改善に向けて委員の方たちも「自分事」として捉え委員会の運営ができた。また、監事によるコンプライアンスチェックも行い、現場の利用者の様子や職員の支援の状況などを調査及び確認した。委員会が形骸化しないよう、引き続き取り組んでいく。

イ. 虐待防止に関する研修の参加と内部研修の強化

虐待防止マニュアル作成や虐待防止については、引き続き取り組みをおこなった。虐待防止の研修は、全職員（事務職も含む）を対象にした研修を実施した。外部研修には積極的に参加し、「虐待防止、身体拘束等」の適正化を推進するための指針を改めて確認し、個別支援計画や面談等に導入し実施した。

ウ. 事業継続計画（BCP）感染症、自然災害の定期点検について

事業継続計画（BCP）の見直しを行う。計画の中では、基本方針や優先継続業務の明確化、各事業所での役割や初動対応について、職員研修を通して改めて職員間で共通理解を図り点検を行った。まず、コロナ感染時の対応状況等の経験を踏まえると、感染時の人員・応援体制等については感染拡大予防や環境整備等々において、マニュアル通りでは難しい状況も想定されたが、初動の大切さを改めて共有した。自然災害におけるBCPにおいても同様に、職員全体で確認し点検を行う。主に、緊急時の連絡方法の構築、発電機の始動練習や送迎困難ケースの確認等具体的に、丁寧に調査し確認した。今後も引き続き、改善を積み重ねてく。また、四街道市と福祉避難所の協定を結ぶことで、法人として防災倉庫を公益財団法人木口福祉財団様から2023年度助成事業を活用させて頂き設置した。災害時には、利用者や避難される方の安全を第一に運営していくことになるが、設置した防災倉庫をしっかりと活用できるよう研修をおこない職員間で共通理解を図った。

エ. 人事考課による評価について

人事考課の運用により、正規職員が自ら設定した仕事の目標を定め実施している。進捗や振り返りを含めコミュニケーションの場面を持つよう行った。職員の一人ひとりととの面談は日頃の利用者支援の質の向上や確認等にも

繋がる貴重な時間だと思われる。利用者を直接支援する職務や業務はリモートではできない職種であるため、職員各々の仕事に向き合う姿勢であったり、仕事に対する意欲を評価に繋げていきたい。この評価が「育成・評価・処遇」に相互に関連し合える仕組みになるよう引き続き取り組んでいく。

オ. グループホームの建設着工に向けて

令和 5 年度施設整備費補助金をいただきグループホームの着工に向けて入札を行う予定。令和 6 年度中にはグループホームの竣工を予定している。グループホームでの利用者支援及び家族支援の体制の構築を行うために希望利用者家族との面談を実施。家庭の状況と、本人の様子などの聴き取りを行ない需要を把握する。

11 | 相談支援事業所あわい

櫻井 美紗都 市川 洋子

あわいが 2022 年 9 月に開所してから 1 年と 7 か月が経とうとしています。管理者の金室修平、相談支援専門員として櫻井美紗都、市川洋子の 3 名の体制で、業務を行っております。少しずつですが、依頼してくださるご利用者様も増えてきました。

相談支援では、相談業務と情報提供や計画作成、サービスの調整などの業務を行っています。私たちあわいは、ご本人やご家族の日々の困りごとや悩みなどに、心を寄せることを大切に、何でも相談できる、話ができる存在でありたいと考えています。これからもそのような存在になれるように努力してまいります。

実際にサービスを提供してくださる、地域の事業者の方々とのつながりも大切です。地域での研修や連絡会への出席、あいさつ回りなどを通して、顔の見える関係づくりをしています。また、四街道市主催の相談支援事業所連絡会に参加し、他の相談支援所の方々との関係をつくりつつ、新しい情報の収集をしています。

今年度もあわいは、法人内で「虐待防止と身体拘束適正化に関する研修」を行いました。現場の職員と、実際の現場での悩みや取り組みなどを共有することにより、あわいのスタッフ自身にとってとても勉強になる経験でした。今後も、法人内で虐待防止と身体拘束適正化について、知識と意識を高めることができるように、研修を行っています。また、法人内のその他の研修についても、企画に参加しています。

あわいは、外部の主催の研修にも積極的に参加しています。4 月から年度末の 3 月までに 13 件の外部研修に参加しています。これらの研修を通して、自分たちの経験のみでは得られない、ものの見方や考え方、知識や情報を得ることができました。また、新しい人との出会いもありました。研修で得たことを、あわいでの業務に生かせるように、意識を持って積極的に外部研修に参加しています。

私たちあわいは、これからもご本人とご家族のお気持ちに沿い、地域で豊かな生活を送っていくことができるように、支援してまいります。

2023 年度実績

契約者数：	15 名
サービス利用計画書作成：	11 件
モニタリング作成：	41 件

「問題行動（他害など）のある利用者への支援方法の検討」

金室修平・村島友里絵・緑川景太

I. はじめに

当法人は、千葉県四街道市たかおの杜で『地域の中で、地域のために、地域に愛される、必要とされる』施設を目指す中で、『地域で、普通の、人としての生活を』送ることができるように支援するという事業理念を掲げて、知的に障がいがある方の中活動（生活介護事業）を行っている。1週間のプログラムとして、ホーム、生産活動、ボランティア活動、サークルといった内容を行いながら、イベント、行事など様々な活動を行っている。障害支援区分は平均 5.3 であり、主に知的に障がいがある方が通っている。

今回のレポートでは、当施設に通所しはじめた利用者(A 氏)が、特定の職員や他の利用者に対しての問題行動（叩く、のしかかる、掴む等以下他害行為¹とする）に対して、どのような取り組みや、考え方、支援が必要なのかという視点で以下のとおりまとめた。特定の職員の特徴としては、身体は細く声も小さく小柄な女性職員である。その女性職員による相談からこの取り組みが始まった。職員会議²録の全てではないが記録を残していたため、取り組みを行う前後の職員の様子としてのちに記載する。

II. A 氏について

【生年月日】

2001 年 4 月 27 日（満 22 歳）

【障害特性】

重度知的障害、障害支援区分 6、療育手帳^④ 2、てんかん、発語はないが、簡単な単語で伝えることができる。自分がやりたいことや、欲しい物に対してのこだわりが強く、折り合いをつけることが難しい。初めての場所や広い空間が苦手で、その場所に入れないことが多く見られる。

【生活】

父母、兄、弟の 5 人家族。祖父母と同居。母と兄が大好きで、母とは常に一緒に行動している。ノートにシールを貼ったり、雑誌のイラストや写真をハサミで切って、のりで貼ることが好き。

【発達】

発達年齢は、2、3 歳ほどの力を持っていると推測される。自分が中心、自分をみて欲しいといった自我の拡大期であると考えられる。

III. A 氏の他害行為を減らすための職員での話し合いや取り組み、その時の様子、それについての考察

① 2020 年 4 月頃

(職員会議録)

職員 E「A さんの近くにいると、なぜだか突然首を掴まれたり、叩いてくるんです。」

職員 B「他の利用者さんにいくのは止めないといけませんよね。」

職員 C「気持ちをそらせて、好きなシール貼りを一緒にするのはどう？」

職員 D「好きなシール貼りに気持ちを向けたら、確かに他害をしないかもしれませんね。シールを用意して、早速明日からやってみます！」

取組①	他害をする直前にシールを見せて、シールの方に取組気を向けてもらう。
成果・A 氏の様子	成果は見られず。 はじめは女性職員を追うことをやめる。嬉しそうにシールを受け取り、他害行為が見られることはなかった。しかし、何度も同じ流れを繰り返しているうちに、シールをみても興味を示さなくなり、他害行為を止めることはできなくなった。
考察	他害をしようとしている時にシールを見ても気が向かなくなってしまったのは、A 氏にとってシールを貰うことよりも、他害行為をして注目を集めたいという気持ちの方が大きいからだと考える。

② 2020 年 6 月頃

(職員会議録)

職員 E「はじめは、一緒にシールを貼っていたのですが、本人の好きなシールがないと逆に怒るようになってしまいました。私の腰につけているカバンからシールを出している時には、もう腕を掴まれてしまいます。でも、ある時、腕を掴まれたときに、本当に痛くて、『痛い！』と大きな声を出してしまったんです。一瞬ですが、A さんはいけないうことをしたという表情をみせたのです。痣が残ってしまったので、包帯で隠したところ、ごめんねっていう感じで気遣う様子もみられました。

職員 B「そんな姿がみられたんだね！優しい姿だよ。」

職員 E「やっぱり、痛いのは痛って伝えるのは必要だ と思いました。」
職員 B「そうだよね。でも A さんの優しい姿も何か周り の仲間に分かってもらえるといいよね。取り組 みのヒントにしたいね。」

取組②	他害を受けた人が、「痛い！」と大きな声で言 い、痛い思いをしていることを伝える。
成果 ・ A 氏の 様子	成果は見られず。 上記の職員会議録でもあるように、はじめは 他害行為が見られることはなかった。また、掴 まれた腕を職員が痛がっていると、自ら救急 箱を持って相手に渡してくれることもあり、 相手の怪我を心配する優しい姿が見られた。 声を掛けてもらえることが嬉しい様子で、笑 顔も見られていた。その後声をかけてもらえ ることがわかると、再び他害行為を行ってい た。
考察	「痛い！」と言ったあとの A 氏の心配そうな 表情は今まで見たことがなく、相手に痛い思 いをさせたいわけではないということが感じ られた。A 氏が他害をする目的は、相手を傷つ けることではなく、注意されることをして注 目を集めたいということが分かった。

③ 2021 年 1 月頃

(職員会議録)
職員 B「前の取り組みでは、優しい姿が見られたけど、 A さんは本来優しいんだよね。」
職員 E「でも、他害が減ることにはつながりませんでし た。」
職員 C「A さんは、男性職員には他害をしないように思 うんだけど。」
職員 D「でも、私はやられたことはないです！」
職員 B「という事は、自分より体が大きい職員さんには やらないということじゃない？ でも、体を大き くするのは難しいな〜。試しに椅子の上に乗っ て、やめてくださいと言え、もしかしたら、 これはまずいな…と思ってくれるかも？」
～職員シュミレーション～
結論「確かに、いけないことしたなって感じるね。」

取組③	・同じ目線の高さではなく、上から見下ろ して注意する。声を低くして注意する。
成果 ・ A 氏の 様子	成果は見られず。 他害をした後に、職員が A 氏を見下ろす格 好になり、声を低くして注意をするが、普 段とかわらずに嬉しそうに笑い、真似をす る様子が見られていた。ひびいていない様 子だった。注意をする時の目線や声色は影 響がないようだった。
考察	A 氏にとって、自分を見てくれていること が嬉しいため、視線の高さや声色は影響が なかったと考える。

④ 2021 年 3 月頃

(職員会議録)
職員 E「注意しようと椅子を用意している間に腕や首を つかまれてしまい、この間決めた取り組みは難 しかったです。それと、注意されたくて、他害 をわざとしているようになってきてしまいま した。私は、最近 A さんがやることに対して「ダ メ！やめてください！」としか言っていないよ うな気がします。周りの仲間も A さんから逃 げるような様子もみられてきました。」
職員 B「他害にばかり気をとられて、A さんの良いと ころにスポットが当たってないようだね。仲間 から認められる、A さんありがとう！って言 われる機会をつくっていききたいね。」
職員 C「周りの仲間が好きなものってなんだろう？ 好き なものを A さんにやってもらって感謝され ることを増やすのはどうだろう？」
職員 D「帰りのティータイムの時に軽いお菓子みたいな ものを配ってもらうのはどうでしょうか？」
職員 B「それはいいかもしれないね。それと A さんは、 F 職員さんによくアピールして一緒にシール貼 りだったり、好きなイラストを切ったりして過 ぎしているのを見るけど。」
職員 E「そうなんです！ F さんに切り貼りしようって A さんはよくアピールするんです。」
職員 C「じゃあ、A さんが切り貼りしよう！って言 ってきたら、絶対に付き合ってあげることも取 組みとしてやっていいかもしれないね。」

取組④	お菓子隊長に任命し、「ありがとう」と皆から感謝される場面をつくる。
成果・A 氏の様子	成果あり。 お菓子を配ったときに、渡した相手から「ありがとう」とお礼を言われると、とても良い表情を見せていた。やらされてやっている役割ではなく、自分から役割をこなしてくれる姿が見られた。
考察	普段は自分のことを優先に考える A 氏であるが、全員分配り終わってから自分のお菓子を選んでおり、仲間のためにお菓子隊長をしている様子が見られた。それは、周りの人から感謝され、人の役に立つことが A 氏の手ごたえとなったのではないかと考える。

⑤ 2021 年 5 月頃

取組⑤	一緒に雑誌の切り貼りをしたい、等の職員へのアピールがあったらいつでも付き合う。
成果・A 氏の様子	成果あり。 アピールがあった時にすぐに付き合ってもらえると、その時間はとても穏やかに過ごすことができていた。そして、次第に他害行為も減り、A 氏が比較的過ごしている場所に来てほしいというアピールになってきた。
考察	A 氏は常に誰かと一緒にいたい、チラシ等を上手に切ってもらいたい等、要求をしている。そのため、それに付き合ってもらえることで、関係性も築け、他害行為が減っていくのではないかと考えられる。

上記の⑤の考察でも述べたが、この取り組みを継続していくことで徐々に信頼関係が構築され、穏やかに過ごされている様子が多く見られていた。そのため、職員での話し合いの結果、今後も継続していくこととなった。現在では、活動が始まる時間になると、切り貼り等の行為にも区切りをつけ、しっかりと切り替えができるようになってきている。そして、活動などにも集中して取り組まれている姿が見られている。

IV.まとめ

A 氏が、当施設に通所しはじめてから 3 年以上が経過し、様々な取り組みを行ってきた。その結果、1 日に 10 回以上みられた他害行為は、現在では週に 1、2 回ほどになっており、明らかに回数が減った。

以上の取り組みの結果以外にも、はちみつでの役割や、好きな事・得意な事をいかしてスポットライトを浴びたことも本人の自信になり、一緒に過ごしている仲間から認められることにつながったのだと考える。

また、A 氏のはちみつの役割である「ミーティングの終わりの挨拶」は、自分の役割としてしっかりと行うことができていることや、ボランティアの草取りは休憩をせずに誰よりも頑張っていることなど、仲間や職員から褒められ認められる経験が、本人の自信につながっていると感じる。

他害がある利用者の支援を考えた時、どうしても他害をなくそうとそちらの方にだけ職員の意識が向きがちになってしまい、利用者の本来の力や、素敵などところを見落としてしまうことがあるように思う。もちろん、他害がなくなることは仲間と暮らす日常生活において過ごしやすさや、関係性につながるとは思うが、本人に寄り添って考えてみると、今回のケースのように『認められたい!』『私を見てほしい!』といった当たり前の姿からの訴えであったり、何かしらの要求の表れであるように思う。他害は減ってきたと報告したが、現在もなくなっておらず、今後も引き続き A 氏への取り組みや支援を継続していきたい。

それに加えて、上述した取組④の「感謝される場面を創る」では、まさに、『感謝される』または『人の役に立つ』ということが、A 氏の手ごたえや情緒面の安定に大きく寄与していると考えられる。こういった取り組みをヒントに、今後の取り組みや活動を広げていくことができればと考えている。

これらを総評して、職員間のコミュニケーションがとても大事であったと考えると同時に、話しやすい環境や人間関係づくりの構築が、今後も大切であると考えられる。これは施設の規模に関わらず、こういった環境の整備が、豊かな利用者支援や取り組み、そして職員のモチベーションに関わってくるのだと考える。当法人及び当施設も今後も引き続き、環境等を整備しながら、利用者支援を豊かにしていきたい。

1. 本レポートでは伝わりやすいように問題行動（他害等）を『他害』と総称して記述する。
2. 当法人では月に一度、特定の利用者の良い点をさらに伸ばすことができるよう、または良い点を見つけることができるように会議を行ってい

はちみつ
支援用語辞典

社会福祉法人
よつかいどう福祉会



令和 6 年 2 月 22 日作成

いばしょ【居場所】

いるところ。いどころ。(広辞苑)(大辞泉)

安心して落ち着いて過ごせる、場所・空間

ヒト(好きな人・キーパーソン)
コト(役割)
モノ(時計・布団・ペン)

てごたえ【手応え】

①突いたり射あてたりした時、手もとにうける感じ。打ったり触れたりした時に、手に受ける感触。また、確かに当たったという感じ。②働きかけに対する反応。はりあい。(広辞苑)(大辞林)

はたらく【側楽】

側(周り)にいる人を楽にすること
側(周り)にいる人を楽しませること

内側 楽しい・できた!・やった!
(外側) 評価される・尊敬される・手本となる
(内側) と(外側) 両方があって、達成感・充実感・満足感を得、やりがいとなる

みとおし【見通し】

①遠くの方まで見えること。②他人の本心や考えなどを見抜くこと。洞察。③未来の事まで察知すること。(大辞林)

始まり〜終わりまでの道すじ
予定・次にやること
この先にあること
予想・想像・想定されること

・校庭をひたすら走ると、3周!と決められて走るのでは、やる気が違う
・ピザを焼くためにレンガを運んで釜を作る

よりそう【寄り添う】

びったりとそばへ寄る。(広辞苑)
体をすり合わせるように、もたれかかるように、そばへ寄る。(大辞泉)

相手の気持ち・心・思い・想いを受け止め(傾聴)、考える・想像する・想いを馳せる側「そば」にいる

障がいの重い人の 労働を考えるとき

千葉 生活介護はちみつ 金室修平



はたらく＝周りの仲間を楽しむ

生活介護『はちみつ』を開所したのは7年前のことになります。ですので、今回は、はちみつの途中経過報告となります。開所当初から私たちは、働くことを『側楽（はたらく）』（側：周りの仲間を、楽：楽しくする）と読み替えてとりくんできました（はちみつの由来は、「はたらくをちいきのみんなとつくる」からきています）。

また、はちみつでは、ホーム（落ち着ける居場所である集団）と、仕事（はたらく集団）があります。ホームとは、生活の基礎的な集団と位置付けており、通所すると、その所属ホームに行き過ごします。ホームは4つあり、仲間はそれぞれ「ホーム」、「仕事」に向かいます。仕事集団は、タートルズ（木工・箒）、クレインズ（織物）、ゴーツ（清掃）の3つです。「仕事」のある曜日は、時間になると「ホーム（家）から「仕事（職場）」に向かいます。「仕事」が終わると、「ホーム」に帰ってきてゆっくり横になって過ごしたり、趣味の創作、散歩など一人ひとりが自由に過ごしています。そんなはちみつでの仲間の様子をご紹介します。

ます。

仲間の姿から仕事をつくる

Aさんは、通いはじめて3年が経ち、仕事への慣れからか、仕事に対してのやりがいを感じにくくなっているようでした。そんな中でも、Aさんにとって「やりがい」の作業はとても好きなように休み時間中でも黙々と作業をする姿がありました。そして、そのやりがいの仕上がりがとてもいいので、製品を購入された方から好評をいただいています。そのことから、Aさんは「やりがいアドバイザー」という役割を担ってもらうことに決まりました。自分のやってきたことが認められ、「やりがいアドバイザー」という役（肩書）がついてから、より一層やりがいに誇りをもって取り組んでくれるようになり、仲間への評価やアドバイスもしてくれるようになりました。今では「やりがいセンター長」という役職に就き、さらにやりがいに磨きをかけています。

Aさんとはちがつて、作業に関わりづらの方もいらっしゃいます。たとえばBさんは、手先が不器用で、手指を使った作業は得意ではありません。しかし、B



「タートルズ」の木工作業

さんは仲間を盛り上げることにかけては、はちみつでは右に出る人はいません。そんな得意な所にスポットを当てたい！と、応援という仕事をつくりました。それからというもの、Bさんには作業をしている仲間の応援をしてもらい、「Bさんの応援でがんばれたよ！ありがとうございます」と、仲間から仕事として認められています。

また、Cさんには、テーブルからテーブルの間での物の受け渡しを担当しても

らい運んでもらっています。通所しはじめたばかりのCさんは、不安もあったのでしよう、仲間とのかかわりは少なく、職員との関係が主でした。そんな中でも、ふとした時に、泣いている仲間の頭をなでに行ったり、話しかけに行ったりする姿は、Cさんの得意なところ、すてきなところとして職員間で共有していました。そんなCさんの仕事を考えたとき、「職員と一緒に」頼まれた物を運ぶという仕事をつくりました。私たちは、

職員を媒介にしてもっと仲間とかかわれる機会を意図的につくること、やりがいにつながるのではないかと考えたからです。初めは受け取ったものを投げてしまったり、途中であきらめてしまっていました。仲間から称賛をたくさんもらうことで「職員と一緒に」から、「ひとりで」と、たくましい姿をみせてくれるようになりました。

そもそも、直接的に渡した方が時間は短縮されるかもしれませんが、そんな遠回りが、Cさんや仲間にとっては、とても大切な時間やかかわりです。仲間もCさんにお願いをすることで、Cさんもみんなと作業をしているという気持ちを持てます。渡された物を投げてしまっていた頃に比べて、仲間から認められているからこそ、渡し方がずいぶんやさしくなってきました。

このように作業にかかわりづらい仲間たちも、仕事に合わせようとする姿が見られるようになりました。それは、『側楽』ことで、人に認められることや人の役に立つことを通して、やりがいを感じることができたからだと思います。私たちは、仕事に合わせようとする仲間の姿に寄り添いながら、『側楽』を通して手

ごたえを感じられるように工夫し、作業そのものを仲間に合わせています。

『側楽』仲間集団づくり

はちみつで、仲間集団をどのように意識し、とりくんでいるのかと言いますと、加藤直樹氏（※加藤直樹ほか 人間発達研究所編、『集団と人格発達』1989年）がいう集団のプロセス（仮説的な提起）を参考にしておこなってききました。提起は、以下になります。

- ①「まずあなたかく迎える」「まず受けとめる」ことによって、仲間が作業に喜んでくれるようになる。他の仲間や職員などと一緒に居たいと感じるようになる。
- ②一緒にいるだけでなく、みんなと一緒にやりたいと思い始める。そして、他の仲間たちがしていること（＝仕事）に手を出すことになる。
- ③それは、ほかの仲間からの積極的評価を招くことになり、仕事に手を出す活動が増幅される。
- ④役割をもたされ、あるいは仕事をしっかりとやってこそ評価される大人の集団の中に身をおくことによって、さらに意欲的に働くようになる。
- ⑤この間に、生活全体が積極的になり、ま

た働く力を磨いていく。それはさらに「責任をもってがんばる」力と意欲につながっていく。

数十年前に立てられたこの仮説を、私たちは実践している途中なのですが、今感じていることは、障がい重い方たちにとっても、『側楽』ことはとても大切なことであるということです。仕事に向かう仲間の背中にはたくましさを感じますし、

仕事を終えて帰ってきた表情には手ごたえを感じます。ホームでは寝てばかりいるけれど、仕事になると誰よりもがんばる仲間や、仕事のためだけに通っている仲間もいらつしやいます。また、ある仲間の日記をみせていただいたのですが、そこに書かれている内容には、仕事に対する確かな責任が感じられます。

障がい重い方の労働を考えた時、『側楽』

しづみ
清掃は室内清掃冷凍トイレの
ろうかのどうきんとゆかりをキレイに
アバンバりましたのれいねんもゴーツ

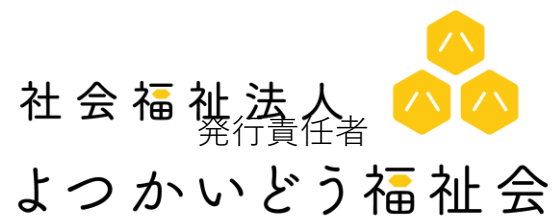


ことが生きがいにつながっているようにも思います。私たちは、そんな仲間たちの「やりがい」や「生きがい」を創っていかねばならないのだと思います。以上が、はちみつを開所してから7年間の実践の経過報告になります。

（かなむろ しゅうへい）

2023年度 事業報告 -実践報告版-

発行日 2024年3月31日



四街道市たかおの杜15番5号

理事長 金室 修平